

# DX博士人材フェローシップ ロゴマーク募集

本フェローシップは「学生のための取組」ですので、ロゴは、是非、学生の皆さんに考えていただき、親近感のある制度になれば、と考え、「ロゴマーク」を募集することといたしました。

応募締切：2022年3月18日（金）

応募資格：北海道大学に所属する学生

その他：副賞（10万円）を進呈いたします。応募方法等の詳細はHPをご覧ください。

<https://sites.google.com/eis.hokudai.ac.jp/dxphd-fellow/logo>



# オンライン授業に関する 全学生向けアンケート

オンライン授業の大規模な導入から2年が経過しようとしています。COVID-19禍が長引く中、今年度も私たち教職員と皆さまが協力して教育研究活動を維持することができましたこと、まずはお礼申し上げます。

今年度も、様々なオンライン授業が開講されました。皆さまの声を基に、オンラインを含む授業のあり方をさらに検討していかなければなりません。

今年度より、北海道地区の56の高等教育機関が連携して、全学部学生を対象にオンライン授業に関するアンケート調査を実施することとなりました。

調査結果は速やかに集計、分析し、学生の皆さまと全教職員にフィードバックします。本アンケート調査へのご協力を切にお願いいたします。

**調査対象**：全学部学生

**回答期間**：2月7日（月）～2月21日（月）

## 1 下記URLかQRコードからアクセス

PCのほか、スマートフォンからでも回答可能です

<https://bit.ly/Srvy21Feb>



## 2 下の画面が出たら、ELMSのIDとパスワードを入力してログイン



## 3 アンケート画面に移動するので、画面下部の「問題を受験する」を選択

(裏面へ)

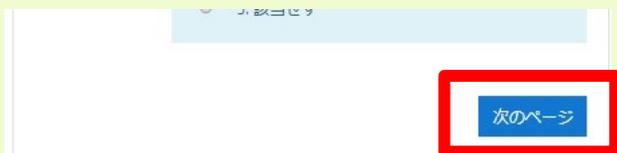


(表面からの続き)

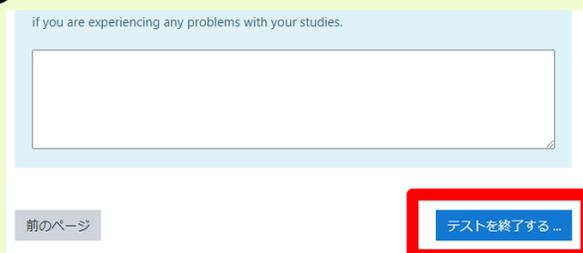
## 4 アンケート回答画面です (左: PC 右: スマートフォン)



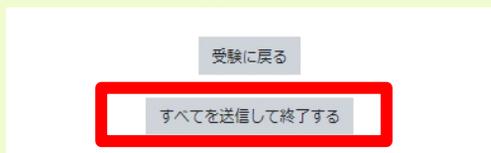
## 5 アンケートは複数ページあります。1つのページへの回答が済んだら「次のページ」を選択。



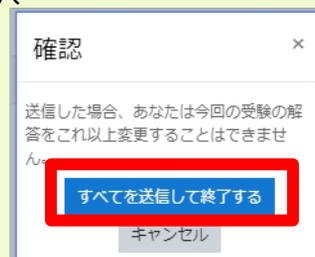
## 6 最後のページまで回答したら、「テスト終了」を選択。



## 7 受験概要が表示されるので、画面下部の「すべてを送信して終了する」を選択



## 8 確認ポップアップが出ます。問題がなければ「すべてを送信して終了する」を選択



## 9 レビュー画面に遷移したら、ページを閉じてOKです。

個人のアンケート情報が外部に知られることのないよう留意し、アンケートの結果は統計的に処理します。



本学はこのアンケートの結果を重要なデータとして取り扱っています。未来の北大生のためにも、是非このアンケートにご協力ください。



お問い合わせ先  
高等教育研修センター  
011-706-7472

## 北海道大学国際戦略2040

## キックオフシンポジウム Kick-off Symposium

2022 2/17(木) 15:30-17:00 ONLINE

## プログラム

1部 進行／国際連携機構副機構長・国際部長 本村 宏明

15:30～15:35 開会挨拶  
北海道大学総長 寶金 清博15:35～15:55 「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」  
北海道大学理事・副学長 横田 篤

2部 進行／国際連携機構副機構長 高橋 彩

16:00～17:00 トークセッション「世界に輝く北の光へ」

卒業生 北海道大学総長 寶金 清博 (医学部卒)  
北海道大学理事・副学長 横田 篤 (農学部卒・農学研究科修了)IPB University教授  
Christofora Hanny Wijaya  
(農学研究科修了、北海道大学アンバサダー)北海道大学公共政策大学院准教授  
池 炫周 直美 (法学研究科修了)在学生 北海道大学公共政策大学院修士1年  
Fernando Ursine  
(現代日本学プログラム課程卒、北海道大学留学生協議会会長)北海道大学農学部3年 木立 真凜  
(新渡戸カレッジオナーズプログラム生)

国際交流のあり方が大きく変容している中、2040年までの中長期的な将来に向かって国際の観点から本学が歩むべき方向性を示した「2040年に向けた北海道大学の国際戦略 Global Vision 2040」が2021年12月に策定されたことを踏まえ、キックオフシンポジウムを開催いたします。

このシンポジウムでは、2040年に目指すべき北海道大学の姿を実現するために、どのような方向性や取組が期待されているのか、本戦略を推進する上で重要なアクターの皆様にご登壇いただき、共に展望します。

対象／本学教職員・学生

言語／日本語

形式／オンライン

↑ 参加申込  
<https://url.kr/6y5den>

第 37 回国連大学グローバル・セミナー

## UNU Global Seminar: Implementing SDGs in the Anthropocene

UNU グローバルセミナー： ～人新世における SDGs の推進～



日 程: 2022 年 3 月 8～11 日  
時 間: 13:00 - 17:00 JST  
開催方法: オンライン (Zoom)  
使用言語: 英語  
参加人数上限: 100 名  
受講料: 1 名 30,000 円  
修了証: 受講修了時に授与  
問合せ先: [ias.pdt.event@unu.edu](mailto:ias.pdt.event@unu.edu)

### セミナーの概要と目的

COP26 が 2021 年末に開催され、IPCC の第 6 次報告書が発表されました。気候変動の影響は多くの分野に現れることは明確になり、それを最小限にするため、社会の変革が急務です。渇水、洪水、生物資源、地滑り等の災害、熱波、海面上昇等の影響は食料、生活、交通、健康、文化継承等の様々な分野で多大な影響をもたらすのです。今年のグローバルセミナーでは**気候変動がもたらす影響を生物資源、水、教育の三つの分野において考えたい**と思います。

本セミナーでは基調講演を生物資源、水、教育にかかわる世界的に 3 名の著名な研究者にさせていただきます。そして、4 名ほどの小グループに分かれ、生物資源、水、教育に及ぼす気候変動の影響に関して論議をしてもらいます。1 日目はワールドカフェの方式を採用し、30 分ごとにメンバーをシャッフルします。2 日目には生物資源、水、教育に及ぼす気候変動の影響を解決する方策を検討します。1 日目と同様のワールドカフェ方式で解決方法に関して考えてみます。最後の 1 時間は 10 名程度のグループに分かれ、**生物資源、水、教育に及ぼす気候変動の影響とベストな解決策を提案**する発表資料を作成してもらいます。3 日目は作業の日です。自由に発表資料を作ってください。4 日目はそれぞれのグループで生物資源、水、教育に及ぼす気候変動の影響とベストな解決策を口頭で発表してもらいます。

### 期待される学習成果

- 多様な専門分野（生物資源、水、教育）のリーダーと交流し、現代社会が直面する地球規模課題への意識向上
- 段階を追ったグループワークを通して、多面的な側面を持つ地球規模課題へ対応する能力の向上
- 気候変動の影響と影響による課題解決方策についての討議を通じて、合意形成の手法取得・コミュニケーション能力向上
- ワールドカフェ方式による討議や発表準備を通じて、他の大学及び異分野を専門とする参加学生とのネットワークを拡大

### 参加対象者

- 日本の大学に在籍する大学生（学部生、大学院生、留学生で専攻分野は問いません）
  - 気候変動の影響と解決について関心のある若手実務家／社会人
- \* 注：テーマについての専門家、研究者を除く

## プログラム日程

March 8	March 9	March 10	March 11
開会 基調講演 コンセプト紹介 グループワーク	基調講演 グループワーク	(作業日) グループワーク	グループ発表 修了証授与

## プログラム

### Day 1: 2022年3月8日(火)

- ◇ 開会挨拶: 山口しのぶ 教授 (UNU-IAS 所長)
- ◇ 基調講演 1 (気候変動と水): 平林 由希子 教授 (芝浦工業大学教授)
- ◇ 基調講演 2 (気候変動と教育・人材): Yee-Kuan Heng 教授 (東京大学教授)
- ◇ プログラム説明: 福土 謙介 教授  
(UNU-IAS アカデミック・プログラム・アドバイザー)
- ◇ グループワーク (ワールドカフェ形式)

### Day 2: 2022年3月9日(水)

- ◇ 基調講演 3 (気候変動と生物資源): Daniel Murdiyarso 教授  
(ボゴール農業大学教授/国際林業研究センター (CIFOR)主任科学者)
- ◇ グループワーク (ワールドカフェ形式)

### Day 3: 2022年3月10日(木) (作業日)

- ◇ グループワーク

### Day 4: 2022年3月11日(金)

- ◇ グループ発表
- ◇ 修了証授与

※プログラムや講演者は変更の可能性があります。

### 国連大学グローバル・セミナーについて

グローバル・セミナーは、1985年に第1回が開催された歴史あるプログラムです。

国連大学グローバル・セミナーは、現代社会が直面している地球規模の問題と国際連合の取り組みについての意識を高めることを目的に開催されています。学生や若い社会人の方々が、国内外の著名な学者や実務家と講演やグループ討論を通して交流し、特定の問題について話し合うまたとない機会となります。

## 令和4年度北海道大学学生寮の入寮募集について

本学学生寮(恵迪寮・霜星寮・北大インターナショナルハウス北23条2号棟)の入寮について下記のとおり募集しますので、入寮を希望する者は、所定の入寮願に関係書類を添えて願い出てください。

## 記

## 1. 募集人数 対象は日本人学生

恵迪寮(男女混住寮)	学部学生男子	160名程度
	学部学生女子	20名程度
	大学院学生男子	15名程度
霜星寮(女子寮)	学部学生女子	15名程度
	大学院学生女子	10名程度
北大インターナショナルハウス北23条2号棟(女子寮)	大学院学生女子	5名程度

## 2. 入寮選考日程

区分	(前期入寮選考)	(後期入寮選考)
選考対象	学部入学予定者(前期日程受験者(前・後期日程両方の受験者を含む)、フロンティア入試・国際総合入試・帰国子女入試・編入学試験合格者)、学部在学生	後期日程のみの受験者、大学院入学予定者、大学院在学生
入寮願出関係書類の提出期間	令和4年2月3日(木)～ 令和4年2月25日(金)17:00(必着)	令和4年2月3日(木)～ 令和4年3月11日(金)17:00(必着)
	※締切は一般入試合格発表日より前になりますのでご注意ください。 ※郵送での提出を原則としますが、窓口を持参をする場合は以下の点に注意してください。 ※受付時間：月・火・木・金曜日(祝日を除く)は、8:30～12:15及び13:00～17:00、 水曜日は、8:30～12:15 ※2/24・25・3/11は入学試験準備及び実施のため、窓口業務を行っておりません。 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、大学構内に立ち入ることができない場合があります。	
選考結果発表日時	令和4年3月11日(金)16:00頃(予定)	令和4年3月25日(金)16:00頃(予定)
	※選考結果については、郵送によるほか、入学予定者は入寮許可者の受験番号、 在学生は入寮許可者の学生番号をホームページに掲載します。 ※ホームページでの確認は、キャッシュ等の関係から、少し時間をおいて確認するようお願いいたします。	
	北海道大学ホームページ ( <a href="https://www.hokudai.ac.jp/">https://www.hokudai.ac.jp/</a> )	

## 3. 入寮選考方法について

- (1) 入学試験合格者及び在学生について、入寮願出関係書類に基づき、経済状況、家族状況、地理的状況を考慮して選考を行います。
- (2) 前期入寮選考で不許可となった場合でも、家計状況により後期選考の対象者となる場合があります。対象者は前期入寮選考結果通知書に明記し、お知らせします。

## 4. 入寮の時期

令和4年4月1日(金)からの入寮になります。

## 5. 入寮案内・入寮願出関係書類セットの入手方法について

令和4年1月14日（金）から本学HPにて掲載

本学ホームページ (<https://www.hokudai.ac.jp/>) > 学生生活 > 各種手続き・証明書 > 住まい (学生寮・アパートなど)・アルバイト

## 6. 入寮願出関係書類の提出について

次の書類をすべてそろえて、角形2号封筒（封筒貼り付け紙と切手を貼り付けたもの）に入れ、入寮願出関係書類の提出期間内に到着（**最終日は17:00必着**）するように提出してください。

- (1) 提出書類確認票（入寮願出関係書類セット内）
- (2) 基本事項記入シート（入寮願出関係書類セット内）
- (3) 北海道大学学生寮入寮願・希望調書（入寮願出関係書類セット内）
- (4) 同一生計の家族について、その収入に関する証明書
  - ① 給与所得者については、令和3年分源泉徴収票の写し
  - ② 給与以外の所得者については、令和3年分確定申告書の写し
- (5) その他該当する各種証明書等（入寮願出関係書類セットを参照）
- (6) 宛名票（入寮願出関係書類セット内）
- (7) 封入書類最終チェック票（入寮願出関係書類セット内）
- (8) 「入寮選考結果通知」送付用封筒（入寮願出関係書類セット内にある封筒貼り付け紙を、準備した長形3号封筒の両面に貼り、送付先及び宛名を正確に記入し、指定された金額の切手を貼付すること。）

※入寮願出関係書類の提出は、原則として**郵送**で行ってください。

※提出期間終了後に到着した入寮願出関係書類は受理できませんので、郵便事情等を考慮して、余裕をもって発送してください。

※**本学の入学試験前日及び当日に入寮願出関係書類を直接持参しても、入試業務のため窓口業務を休止していることから受理できませんので、ご注意ください。**

## 7. 学部学生の学生寮における生活について

学生寮は大学が管理運営していますが、学部学生については、寮生が自治会を結成し、共同生活のルールを決めて生活しています。

自治会がどのような組織で、寮生が実際にどのように生活しているかは、恵迪寮・霜星寮各自自治会発行の入寮案内に詳しく掲載されています。それぞれ以下のURLから確認してください。

### ● 恵迪寮

自治会ホームページ（入寮関連ページ）：[北海道大学恵迪寮 \(main.jp\)](http://keiteki.main.jp/sennkou.html)  
(<http://keiteki.main.jp/sennkou.html>)

（つながらない場合は、「恵迪寮」で検索してください。）

事務室電話：011-747-7849（実生活に関する質問に寮生が直接お答えします。）

（受付時間 7:00～21:00）

### ● 霜星寮

入寮案内掲載：<https://drive.google.com/file/d/1A88bPjQ4oZTvPGi40-wQmc11m-zRuhqI/view>

※ファイルが開けない場合は、ブラウザを変更する等の対応をお願いいたします。

事務室電話：011-758-7934（管理人が常駐しています。）

※大学院生の学生寮における生活及び北大インターナショナルハウス北23条2号棟に関することについては、以下の問い合わせ先へお問い合わせください。

## 8. その他

- (1) 学生寮及び入寮選考に関する問い合わせ先  
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
北海道大学学務部学生支援課生活支援担当  
電話(011)706-7532・7469  
(受付時間:月曜日～金曜日（祝日を除く） 8:30～12:15及び13:00～17:00)

- (2) 定員に空きがある場合は、10月入寮の募集を行います。

（以上）

# Essential Tips for Writing a Grant Application

[For the young researchers]

3/10 (Thu.)

16:00-17:30 online

[Registration]  
by 3/3  
16:00



Mr. Greg Adams/Managing Editor  
FORTE Science Communications  
[www.forte-science.co.jp](http://www.forte-science.co.jp)

- \* Seminar will be conducted in English
- \* Open to graduate school students (MC, DC), and postdocs
- \* For more details : <https://bit.ly/3t35AqG>

<How to apply>

Go to Front Office for Human Resource Education and Development HP ( <http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/> )

Click on the banner " Essential Tips for Writing a Grant Application " . Please also register in Hi-Syste (details in our homepage)



Career Development Project for  
Researchers of Allied Universities



北海道大学  
附属図書館



# Personal story : from PhD to postdoc in the Netherlands

2/7

LIVE from the Netherlands

(Mon.) 16:00-17:00 Online

Register by 2/2 (Wed.) 16:00



## Outline :

1. My career path and personal story
2. Steps to finding a postdoc position abroad
3. Take-home message and pointers for graduate students who plan to find a research position abroad after graduation
4. Q&A session

Lecturer: Jie LI, Ph.D.

Postdoc Researcher, Computational Science Lab  
Informatics Institute, University of Amsterdam  
2021 PhD, Media and Network Technologies, Hokkaido University



\* Seminar will be conducted in English

\* Target : Hokkaido University graduate school students and postdocs

\* For more details : <https://bit.ly/33ax6Yx>

<How to apply>Go to Front Office for Human Resource Education and Development HP.

Click on the banner "Alumni Lecture from the Netherlands"

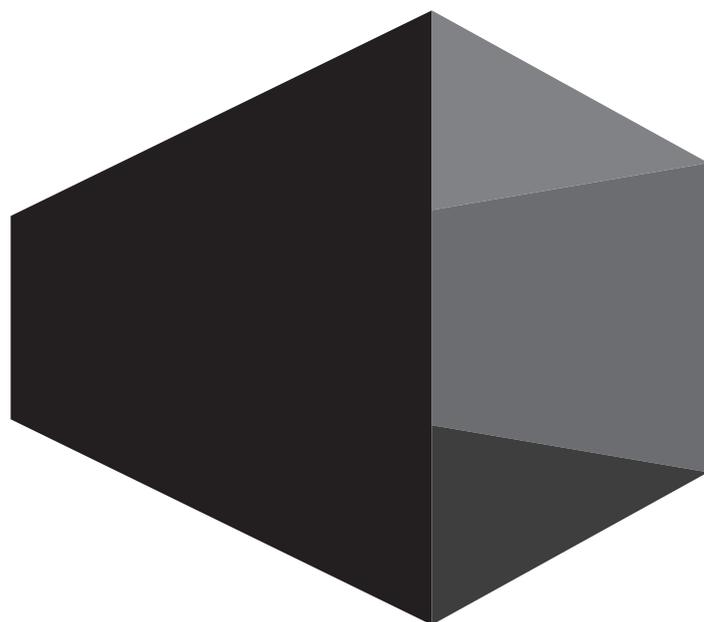
Please also register in Hi-System (details in our homepage)

Front Office for Human Resource Education and Development, Hokkaido University

I-HoP [ihop@synfoster.hokudai.ac.jp](mailto:ihop@synfoster.hokudai.ac.jp) [www2.synfoster.hokudai.ac.jp/ihop](http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/ihop)

世の中にないものを作り出す秘密基地

# SFP02



学生対象  
(学部・大学院)

# HOKUDAI TECH GARAGE



web説明会  
2021.12.10(fri),17(fri),22(wed)

## Spring Founders Program / 2022.2.2 - 3.24

北大テックガレージ (HUTG) Spring Founders Programは、モノづくりを通して学生自らが世の中にプロダクトを提案することを目指した春休み2ヶ月間のプログラムです。フロンティア精神を胸に、世の中に新たな価値を生み出すことに挑戦するプロジェクトを応援します。

- ▶ HUTGが提供可能なリソース
  - ・プログラム期間中の活動資金 (3~30万円程度)
  - ・作業スペース (工具、レーザーカッター、3Dプリンター、高性能PC等)
  - ・同じバッチで切磋琢磨する仲間・コミュニティ
  - ・定例会 (ゲスト講演等)
  - ・相談会(スタッフメンバーにより随時)



- ▶ 応募条件、説明会、応募等はQRコード  からWebページにアクセスしてご確認ください
- ▶ 応募締切 : 2021.12.31(fri) 23:59(JST) まで

# 北大テックガレージ (HUTG)

## Spring Founders Program(SFP02)2022 募集要項

### 1. 趣旨・目的

北大テックガレージ (HUTG) Spring Founders Program(SFP)は、モノづくりを通して学生自らが世の中にプロダクトを提案することを目指した春休み2ヶ月間のプログラムです。フロンティア精神を胸に、世の中に新たな価値を生み出すことに挑戦するプロジェクトを応援します。

世の中の多くの新製品と同様に、多くの挑戦的なプロジェクトは失敗します。このプログラムは失敗しても良く、挑戦を続ける限り活動資金の返済義務は負いません。

本プログラムに採択された場合、以下のことが可能となります。

- ・企業が用意した課題を解決するのではなく、自分たちが自ら考える課題やニーズに応えるプロダクトを自由に作ることができます。

- ・自らのアイデアに基づく技術的なプロダクトをユーザーや社会に対してデプロイすることに挑戦できます。

- ・採択されたメンバーは、SFPを通して、学びと経験、新たなネットワークを作ることができます。

自分たちの技術プロジェクトをやり遂げ、プロダクトを世の中に展開し社会に問うことは、貴重な経験と大切な仲間を得られる機会です。さらに、プロジェクトが成功した場合には、次のステージに挑戦し、大きなリターンを得ることができるかもしれません。HUTGでは、世界を変えることを目指す未来のアントレプレナーの挑戦を全力で応援します。

### 2. プログラム内容

本プログラムに採択された場合、定例会に参加しながら、テックガレージにてプロダクトを自由に作ることができます。毎週水曜(2/2 日キックオフ)で行われる定例会では、必要な考え方や手法を学ぶ実践的レクチャーに加え、活躍するスタートアップ創業者や投資家を招き、交流する機会を提供します。詳しくは web まで <https://cosmos.gfc.hokudai.ac.jp/hkd-startup-support/sfp>

### 3. 提供するもの

- ・利用可能な作業場所 (3D プリンター, 高性能 PC, レーザーカッターが利用可能な作業スペースを提供) \*FMI (フード&メディカルイノベーション) 国際拠点棟 1階 114室を予定 住所: 札幌市北区北 21 条西 11 丁目
- ・定期的な相談会
- ・同じバッチで切磋琢磨する仲間
- ・プログラム期間中の活動資金 (総額 30 万円以内。使用計画を伺った上で金額を決定しま

す。活動資金は 2 回に分けて支給し、中間発表時にプロジェクトの継続審査を予定しています。)

・提供する工作機械や環境は、必要に応じてアップデートしていきます。

HUTG では、皆さんが技術プロジェクトに集中し、開発速度を上げるための環境を提供します。

### 3. プログラム実施期間

2022 年 2 月 2 日 (水) から 3 月 24 日 (金) (約 2 ヶ月間)

### 4. 応募条件

- 1) 北海道大学の現役学生 (学部生, 修士課程, 博士課程, 専門職学位課程) がリーダー (またはリーダーのうちの一人) であるチームに限ります。応募する際の代表者は北海道大学所属の現役学生にしてください
- 2) 本プログラムでは、技術的な要素を含むプロジェクトを支援します。
- 3) チームに最低一人以上のエンジニア (手を動かせる人) がいることが必須です。(エンジニアは多ければ多いほど望ましいです)
- 4) 特別の理由がない限り、メンバー全員がプログラム期間中に開催される毎週水曜日の定例会に参加してください
- 5) 中間発表 (2 月 24 日 (木) を予定)、最終発表会 (3 月 23 日 (水) を予定) に最低一人は参加してください
- 6) 北海道大学の新型コロナウイルスの感染予防ルールを遵守すること
- 7) すでに起業しているチームは応募できません
- 8) 本プログラムに参画する学生で、財団法人日本国際教育支援協会が取り扱う「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入していない方は、プログラム開始までに必ず加入してください。
- 9) 過去に参加した HUTG (SFP01) と同一のプロダクトでの申請はできません。

### 5. 応募締切・応募方法 (応募から開始までのプロセス)

2021 年 12 月 31 日 (金) 23:59 (JST) までに下記 URL の応募フォームから応募してください。

<https://forms.gle/9SHfBKdpjuohippy5>

全ての応募者 (チーム) に対して、応募締切から 2 週間以内に書類選考の選考結果と、面接の日程調整のご連絡をいたします。面接は 20 分程度の対話形式で行います。資料は必要ありませんが、伝わりにくいプロダクトの場合、それらをうまく伝えるための資料の準備をお勧めします。ラフスケッチ、プロトタイプのデモなどでも構いません。

応募フォームでは以下の項目について記述をお願いするため、Word 等で下書きをしてからオンライン上のフォームに記入することをおすすめします。

- 代表者のメールアドレス
- チームメンバー（名前，メールアドレス，大学と学部と学科，年次の順）
- チームメンバーの関係性を教えて下さい
- プロジェクトのアイデアの詳細
- 作るものを一言でいうと
- なぜこのアイデアを選んだのですか？ なぜあなたなのですか？（専門性などがありますか？） なぜ今やるべきだと思いますか？
- 期間中のゴールを教えてください
- 補助金としてどの程度の予算を希望しますか？【記入例】(2月)人感センサー:20,000円、温度センサー:5,000円、Raspberry Pi 4:5,000円、塩ビパイプ:2,000円 (3月)アルミ板:3,000円、ステッピングモーター:6,000円、・・・
- 過去の技術プロジェクトの経験
- SFP 期間中，既に他の予定が入っている場合は，その概要を教えてください
- なぜ応募しようと思ったか簡単に教えてください
- SFP をどこで知ったか簡単に教えてください

## 6. 審査方法と採択予定件数

応募締切後に書類選考を行い，書類選考通過者（チーム）には，面接選考を実施いたします。本プログラムの採択チーム数は5チーム程度を予定しております。

## 7. 募集するアイデア

- 応募いただく技術プロジェクトのテーマに限定はありません。Web やモバイルアプリ以外の技術プロジェクトのアイデアも積極的に募集しています。
- ビジネス化が可能かどうかは応募の段階では問いません。
- ただし必ず技術的な要素を含んだプロジェクトにしてください。また期間中に最低限プロトタイプを作り，それをユーザーや社会にデプロイすることを前提として考えてください。
- 本プログラムでは，まっとうなアイデアよりも，我々が聞いたことも見たこともないアイデアを求めています。
- 失敗しても構いません。たくさんのユーザーがほどほどに好きなアイデアよりも，ほんの少しのユーザーが深く愛してくれるようなアイデアで応募してください。
- 本プログラムでは，世間の流行りから少し離れた新しい領域への，おもちゃのようなものから始まるプロジェクトを積極的に求めています。

## 8. 新型コロナウイルスによる影響について

本学では2020年4月16日に、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための北海道大学

の行動指針 (BCP)」を策定しました。今年の本プログラムの定例会に関しては、「レベル 1\_制限 (小)」以上のときは、基本的にオンライン開催といたします。プログラム採択者には、常に本学が発表する最新の行動レベルの指針を運営メンバーから発信しますが、自身でもホームページ等で常に確認して指針に沿った活動を取ってください。基本的に「レベル 3\_制限 (大)」以上では、活動ができません。また「レベル 2\_制限 (中)」では、作業スペースである理学部物理学実験室の利用をチームごとのシフト制とします。感染防止拡大措置を講じた上で活動を実施してください。「レベル 1\_制限 (小)」のときは、感染防止に最大限配慮した上で活動を実施してください。

## 9. お問い合わせ先

北海道大学 北大テックガレージ HUTG 運営チーム

e-mail: hutg@gfc.hokudai.ac.jp

## 10. 主催/協力

北海道大学技術支援・設備共用コアステーション (CoSMOS)/グローバルファシリティセンター (GFC)

北海道大学大学力強化推進本部 URA ステーション

北海道大学産学・地域協働推進機構

連携:東京大学本郷テックガレージ

**\*本プログラムは、東京大学本郷テックガレージの協力のもと連携して立ち上げたプログラムです。**

## 11. 北大テックガレージ HUTG 運営チーム

北海道大学技術支援・設備共用コアステーション (CoSMOS)

CoSMOS/GFC センター長 教授 網塚 浩

CoSMOS/GFC 副センター長 佐々木 隆太

北海道大学 産学・地域協働推進機構

産学協働マネージャー 千脇 美香

北海道大学大学力強化推進本部 URA ステーション

URA ステーション長 阿部 弘

主任 URA 加藤 真樹

URA 阿部 義之

## 学生ビジネスプランコンテスト

未来のイノベーター求む！

# JUMP

JA × University "MIRAI" Pitch-Contest

優秀賞

賞金総額

100万円

JUMP賞

JAアクセラレーター  
2次選考参加権

ファイナリスト賞

5万円

&  
ラボ1年利用権  
&  
メンタリング

その他

各スポンサー賞

学生ビジネスプランコンテスト

### JUMPとは

JAグループのイノベーションラボ「AgVenture Lab」は、社会課題の解決を目指す若手起業家の育成に取り組んでいます。ビジネスプランコンテスト「JUMP」は、既に起業している、これから起業を目指す、学生チームのサポートを目的とした、全国規模のピッチコンテストです。

ファイナリスト全チームに、AgVenture Labによる事業拡大に向けたサポートが与えられるほか、総額100万円の賞金も用意しています。このコンテストに参加し、AgVenture Labとともにあなたのビジネスも「JUMP」しましょう！

### 選考スケジュール

エントリー開始：2021/11/16～

事前説明会：2021/12/10

エントリー締め切り：2022/1/3

セミファイナル：2022/1/29

最終ピッチコンテスト：2022/2/26



次世代に残る農業を育て、地域の暮らしに寄り添い、場所や人をつなぐ

主催：AgVentureLab（アグベンチャーラボ）

AgVenture Lab は、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、一般社団法人家の光協会、株式会社日本農業新聞、全国厚生農業協同組合連合会、株式会社農協観光の全国組織8団体が共同して開設したイノベーションラボです。

# 募集要項

事業領域 「食・農」「暮らし」「金融」「その他(SDGs等)」の分野であること。

参加企業・チーム

大学の学部生・大学院生・ポストドクターを代表者として構成されるチームまたは個人であること。

その他

- 公開で実施する「最終ピッチコンテスト」に代表者が参加し、AgVenture Labの会場でプレゼンを実施できること。
- 最終ピッチコンテストの内容について、YouTube等での配信について同意できること。
- 賞金を受領した場合、後日のイベント登壇等に合意できること。



農業の現場では労働力不足など、様々な課題を抱えています。農業のイノベーションによって効率化や高度化を実現し、消費者に豊かな食を提供しましょう。



高齢化が進む中、健康は人々の暮らしにおける重要課題。ほか、ツーリズムや情報発信など日々の暮らしに利便性や豊かさをもたらすアイデアを募集します。



銀行や保険など、JAグループでは金融分野の幅広いアセットを持っています。この分野における先端技術を用いた新たなサービスのアイデアを求めています。



地域社会の活性化につながる商品やサービス、SDGsの課題の解決につながるような革新的なビジネスアイデアを求めています。

## 審査基準

Novelty  
新規性

Possibility  
実現性

Profitability  
収益性

Enthusiasm  
熱意

Impact  
社会的  
インパクト

## FAQ

Q 法人化していても応募可能ですか？

A 代表者が応募要項に合致していれば可能です。

Q 日本以外の大学の学生ですが応募可能ですか？

A 大学の所在地や学生の国籍問わず応募可能ですが、ピッチコンテストで日本語でのプレゼンを実施できることが条件となります。

Q 専門学校生ですが応募可能ですか？

A はい、応募可能です。

Q 高専生ですが応募可能ですか？

A チームの代表者の方が高専4年以上の方であれば応募可能です。

Q 既卒ですが応募可能ですか？

A 学生時代に開始したビジネスについて応募する場合などに、卒業後の期間によっては応募可能な場合がございます。個別のエントリーは事務局にご相談ください。

Q 賞金の用途の制限などはありますか？

A 応募いただいた事業の拡大につながる用途であれば制限はございません。先進地視察費用、試作品開発費、営業のための交通費など、自由にご利用いただけます。

Q 応募したアイデアは守られますか？

A はい。各参加チームのアイデアは最大限尊重させていただき、ビジネスプランコンテストの登壇者による発表を除き、許可無く他チームに公開することはありません。ただし、多くの参加チームが類似のアイデアを出すことを想定していますし、世の中には同類のアイデアは散在していますので、事業アイデア自体を秘匿することのみを目的とした守秘義務契約等の締結は想定していません。なお、審査を目的に、運営者であるAgVentureLabおよび審査員のほか、AgVenture Labの会員のJAグループ各社およびパートナー企業、メンターに共有させていただく可能性がございますので、秘匿情報に関しては記載なさらないようお願いいたします。



一般社団法人 AgVenture Lab  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビルディング9階  
MAIL : info@agventurelab.or.jp

## 応募方法・お問い合わせ



WEBサイトからのお申し込み

<https://jump.agventurelab.or.jp/>

メール : [jump@agventurelab.or.jp](mailto:jump@agventurelab.or.jp)

エントリーは  
2022.1.3  
まで

# 北海道福祉のまちづくり サポーター募集!

## ◆福祉のまちづくりサポーターとは？

心のバリアフリーの理解と普及を目指すため、日頃から取り組んでいる心のバリアフリーの活動を道に報告したり、日常生活で気付いた優良事例を自らがSNS等で情報発信していただくなど、普及啓発活動の担い手として活躍していただくボランティアです。

サポーターと道が連携して、心のバリアフリーの理解と普及を進めます。

※心のバリアフリーは、様々な心身の特性を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。



保健福祉のマスコットキャラクター「うっさん」

## ◆サポーターの活動内容

- ① 日常生活で気付いた「街中のバリアフリー」の**優良事例**を自身のSNS(ツイッター、インスタグラム、フェイスブック)で情報発信  
SNSは「**#北海道福祉のまちづくりサポーター、#心のバリアフリー**」  
**日常生活で気付いた優良事例を投稿するだけ!!**
- ② 街中の**優良事例**の情報収集と道への情報提供(メール、FAX、郵送)  
企業等の団体が取り組んでいる心のバリアフリー活動でもOK!
- ③ 自主的な勉強会、研修会等への参加
- ④ 企業等のボランティア活動に参加
- ⑤ 道の普及啓発活動に参加



◆上記のうち、どれか一つでも実施できればOK!

※優良事例を広く道民に周知し、心のバリアフリーを促進させることが目的です。 マナー違反の指摘や特定の施設及び活動の改善を求めるものではありません。

## ◆サポーターの応募資格

福祉のまちづくりに興味、理解、熱意を持つ道民であって、心のバリアフリー推進に関する活動ができる方であれば誰でもサポーターになれます!

**個人の応募だけではなく、学校やサークル、企業等の団体での応募もできます!**

※原則として自らの責任・負担で活動していただきます。

## ◆サポーターの応募方法

「北海道福祉のまちづくりサポーター登録申請書」に必要事項を記入し、郵便・FAX・電子メールで道へ提出

## ◆お問い合わせ・申込先

〒060-8588  
札幌市中央区北3条西6丁目  
北海道保健福祉部福祉局地域福祉課  
企画調整係  
電話011-231-4111(内線25-613)  
FAX011-232-4070  
E-mail: fukushinomachidukuri-sapo@pref.hokkaido.lg.jp

北海道福祉のまちづくりサポーター 検索

詳しくは北海道庁地域福祉課の  
ホームページで!



<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/feg/fukumachi-sapo.html>

## Collaborating in Asia :

### The role of universities in co-creating climate resilient communities 開催について

○日時: 令和3年11月11日(木)18時00分～19時00分

○場所: オンライン

○主催: International Universities Climate Alliance

○参加費: 無料

○言語: 英語

○プレゼンテーション:

\* 北海道大学 横田 篤 理事・副学長(事前録画)

\* 北海道大学 北極域研究センター 大西 富士夫 准教授(事前録画)

\* トリブバン大学 Deepak Aryal 教授

\* インド・エネルギー・資源研究所 Shaleen Singhal 教授

○学生によるパネルディスカッション

\* 北海道大学 大学院国際食資源学院修士2年 二宮 秀輝さん

\* インド・エネルギー・資源研究所 Prabhakarn T. R.さん

\* トリブバン大学 Deepa Pradhan さん

\* シンガポール国立大学 Zhu Wei さん

\* 南京大学 Rong Tang さん

○申込 URL: <https://www.eventbrite.com.au/e/university-collaborations-in-asia-tickets-199575705307>

農学研究院食水土資源グローバルセンター主催

国際食資源学院、経済学研究院、公共政策大学院、ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点構想共催  
国際連携研究教育局(GI-CoRE)後援の国際シンポジウム Cocreation of Social System and Technological  
Innovation for Global Food Resources が 11 月 17,18 日に開催されます。

食資源をめぐる社会制度とそれに連動する技術革新について、元国連大使、現 FAO 職員など、食資源問題  
の最前線で活躍する講師、先生方の話題に触れることができます。皆様、奮ってご参加をお願いいたします。

日時: 11 月 17(水)18 日(木)10 時～

ハイブリッド開催

オンサイト: 学术交流会館・小講堂

オンライン: ズームウェビナー

参加方法: 事前登録 下記の URL より登録をお願いします

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdTJJuajoVowtipDihp173qF\\_CFdIhN--NFj9Vss9mSIEzwOg/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdTJJuajoVowtipDihp173qF_CFdIhN--NFj9Vss9mSIEzwOg/viewform)

言語: 英語

私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を推進しています。

# 気候変動・SDGs アクションLabo



参加者募集

## 2021年10月～2022年3月

初回 10月26日(火) 18時30分～21時00分(予定)

参加  
対象

- さっぽろ連携中枢都市圏(※裏面下段参照) 在住の方で、気候変動やSDGsに関心があり、具体的な行動に一步踏み出してみたい方。
- インターネット環境があり、PCなどでアクセスできる方。  
(オンラインの様子を聞くだけの参加は原則できかねますので、あらかじめご了承ください。)

全11回

先着30名(予定)

オンライン開催

※原則としてZoomミーティングを活用します。



詳細は札幌市公式ホームページをご覧ください。

近年、気候変動やSDGsという言葉は、ニュースをはじめいろいろなメディアで目にするが増えました。

もしかしたら学校で習ったという人も多いのではないのでしょうか。

しかし、気候変動やSDGsに対して自分がどのようにアクションをしたらよいのか、  
 どんなことができるのか、わからないという声も多く耳にします。

そこで、今回の「気候変動・SDGsアクションLabo」では、「行動する事」を大きなテーマとして、プログラムを実施することとしました。具体的には、①森林・エネルギー・ごみ問題などをテーマに、気候変動やSDGsに取り組むNPO等の活動現場の体験やメンバーとの交流を行う「ファーストアクションプログラム」、②身の回りの企業や団体が抱える具体的な課題に対し、どういった対策が必要かを考え、実践する「実践プログラム(仮)」を行う予定です。

プログラムの実施にあたっては、①「パートナーシップ」、②「Think Globally, Act Locally<sup>※</sup>」、といった気候変動やSDGsの実践において重要視される考え方を大切にしていきたいと思えます。

プログラム終了後には、皆さんそれぞれの活動実績に応じた「認定証」の発行も予定しています。

「自分も何かしてみたい」そんな皆さんの参加をお待ちしています。

※地球規模で考え、足元から行動しようという考え方。

【主催】札幌市環境局

【協力】ワークショップデザインdescribe with / 合同会社Dialoger



# あなたの幸せの種 まきを教えてください。

(ボランティア体験・実践)

## 学校での活動

学校単位      クラス単位  
生徒会      ボランティア部      JRC  
サークル      個人

## 地域での活動

学童保育      子ども会  
団体・グループ      PTA  
家族      個人

 あなたの幸せの種まき 

SYDボランティア奨励賞選考委員会

文 部 科 学 省 **後 援**  
**SYDボランティア奨励賞**  
(文部科学大臣賞)



公益財団法人 修養団(SYD)は、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて115年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動をおこなっており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。



公益 修養団  
財団法人

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2  
TEL: 03-3405-5441 FAX: 03-3405-5424  
E-mail: info@syd.or.jp <https://syd.or.jp/>

# CAREER LINK MEETUP



**-For International Doctoral Course  
Students and Postdocs-**

**For more details**

<https://bit.ly/3lkvRw7>

**Application deadline  
Oct. 18th(Mon.)4:00pm**



**Nov.30th (Tue.), Noon to the evening  
2021 ONLINE**

## **Program**

Company Presentation  
Student Poster Presentation  
Q&A at Company Exhibition Booth  
Networking

## **Language**

English

## **Participating Companies (As of Oct. 8)**

Astellas Pharma Inc. (Recruitment for FY2024 or later)  
AWL, Inc.  
Cambridge Consultants Japan Inc  
KPMG Ignition Tokyo, Inc.  
Rakuten Mobile, Inc.  
ROHTO Pharmaceutical Co., Ltd.  
Sanoh Industrial Co., Ltd.  
Sony Corporation  
(AtoZ)

**Organizer**

**I-HoP**

(International Human Resource Development Program, Hokkaido University.)

**Co-organizer**

**S-cubic, COFRe**

**Contact**

[ihop@synfoster.hokudai.ac.jp](mailto:ihop@synfoster.hokudai.ac.jp)

**Application deadline Oct. 18th(Mon.)16:00**

赤い糸 ONLINE 英語版

# Circumpolar Studies Online Course

## 冬期（2022年1-4月）募集要項

### 概要

Circumpolar Studies Online Courseとは、The University of the Arctic (UArctic) のメンバー大学が、オンライン教育システムにより提供する北極域に関する学部レベルのオンライン授業です。

### 開講科目（Winter Semester: January-April 2022）

コース	内容・期間・コース提供大学	受講条件
CS 100	Introduction to the Circumpolar World Jan. 22 - Apr. 22, hosted by Yukon/UNBC (University of Northern British Columbia)	
CS 312	Land and Environment of the Circumpolar World II Jan. 22 - Apr. 22, hosted by Trent University	CS100, CS311 修了者
CS 322	Peoples and Cultures of the Circumpolar World II Jan. 22 - Apr. 22, hosted by Trent University	CS100 修了者
CS 332	Contemporary Issues of the Circumpolar World II Jan. 22 - Apr. 22, hosted by Trent University	CS100 修了者

### 対象

全学部・大学院に所属する正規学生（休学者を除く）

※講義に意欲的に取り組み、修了する意思のある者

### コース内容

教材の読解・課題の提出・コース専用ウェブサイト内の掲示板を利用することによる教員や受講生とのディスカッション・試験等

### 受講料

無料

### 使用言語

講義を理解し、ディスカッションに参加できる英語力が必要です。

※英語力を証明する書類提出要

英語

英語力については本学の交換留学に対応するレベルを目安と考えています。

（TOEIC 730 以上、TOEFL iBT 70 以上、IELTS 5.5 以上に相当する英語力）

## 受講に必要な環境

インターネットに接続でき、ウェブサイトの閲覧が可能な環境

## 申込

- 提出書類等  
(必須)
1. Online Course Registration Form (登録フォーム)  
必要事項を英語で記入してください。  
"Online Course Selection" 欄は、Winter Semester のみ記入してください。  
(Fall Semester の募集は終了しました。)  
"STUDENT SIGNATURE (Required)" 欄に署名(自筆)及び "Date" 欄に記載したものを PDF ファイルにし、一式(3枚全て)をメールで送付してください。  
なお、3枚目 "HOME INSTITUTION PERMISSION --- FOR INTERNAL USE ONLY" の欄は国際連携課で記入しますので、何も記入せずご提出ください。  
登録フォームは、印刷に問題無いよう、PDF の解像度に留意し送付願います。
  2. 英語力を証明する書類のコピー (TOEIC, TOEFL, IELTS など)
  3. 上記書類の提出時には、①氏名(漢字) ②所属・学年 ③学生番号 をメール本文に記載してください。

送付先 global@oia.hokudai.ac.jp (岩崎宛)

提出期限 2021年10月20日(水) 17:00 まで

## 受講についての留意事項

コース定員 各コースには定員があります。コースの申込人数により、受講できない場合がありますのでご了承ください。

成績証明書 修了者には、成績証明書が発行されます。

単位 本コースで取得した単位は、本学の単位として認定されません。

受講の継続 登録したコースの専用ウェブサイトにて一定期間ログインしなかった場合、受講が継続できなくなることがあります。やむを得ず中断する場合は、コース担当教員の承認を得てください。また、下記の国際連携課担当者宛てに必ず連絡してください。

ウェブサイト 【Circumpolar Studies の概要】  
<https://education.uarctic.org/studies/circumpolar-studies/>  
【CS 100, CS 312, CS 322, CS 332 コース概要】  
<https://members.uarctic.org/participate/circumpolar-studies/course-materials/>

担当者：国際部 国際連携課 国際連携担当 岩崎

担当連絡先 電話：011-706-4409 (内線 4409)

Eメール：global@oia.hokudai.ac.jp



University of the Arctic – Circumpolar Studies Online  
 Online Course Registration Form – Application Deadline  
 August 1<sup>st</sup>, 2021

(Please type)

**Name & Personal Data**

Mr.  Mrs.  Miss  Ms.  Dr.  Other

Family/Surname/Last Name:

First Name & Middle Initial:

Preferred First Name:

Date of Birth: Day:                      Month:                      Year:

First Language:                      \*\*\*

Citizenship:

**Email and Mailing Address**

**Current Mailing Address**

Box #/Street & #/Apt. #:

Town/City:

Province/State:

Country:

Postal/Zip Code:

Phone Number:

**Email Address (REQUIRED – MUST BE LEGIBLE):**

**Online Course Selection**

**Fall Semester (September – December 2021)**

**Winter Semester (Jan – April 2022)**

CS 100 – Introduction to the Circumpolar World

CS 100 – Introduction to the Circumpolar World

CS 311--Land and Environment of the Circumpolar World I

CS 312 – Land and Environment of the CW II

CS 321 -- Peoples and Cultures of the Circumpolar World I

CS 322 – Peoples and Cultures of the CW II

CS 331 – Contemporary Issues of the Circumpolar World I

CS 332 – Contemporary Issues of the CW II

ARCTIC 200 - Arctic Indigenous Internationalism

ARCTIC301 – Inuktitut Inuit Language

\*limited enrollment and with permission by instructor

**Student Declaration**

- I hereby certify that I have read and understand all information on this application form and the *Application Guide* and that all statements made in connection to this application are true and complete.
- I authorize the staff of the offering institution, my home institution, or staff of the University of the Arctic to register and withdraw me in the above checked course(s) and to sign on my behalf for any other institutional requirements.
- I authorize the release of my transcript(s) to the UArctic Online office in order that they may be sent directly to my home institution.
- I acknowledge that hard copies of my transcripts will NOT be retained by the UArctic Online office after they have been mailed to my home institution.
- I authorize my student information to be shared among UArctic member institutions and the International Academic Office for record keeping and statistical purposes.

\*\*\* The language of instruction is English. **Applicants whose first language is not English are normally required to submit proof of English proficiency**

**\* STUDENT SIGNATURE (Required):**

**Date:**

This information is being collected and protected under the *Freedom of Information and Protection of Privacy Act* ("FIPPA") of Canada and will be used for registration and contact purposes only. Questions or concerns about the collection or use of this information may be directed to the IAO at [circumpolarstudies@uarctic.org](mailto:circumpolarstudies@uarctic.org).



## University of the Arctic – Circumpolar Studies Application Guide

### CS Site Coordinator

The CS Site Coordinator is your main contact person at your home institution for UArctic's Circumpolar Studies courses. You must submit your registration form to your site coordinator to receive permission to enroll in UArctic classes and they will forward the form to UArctic on your behalf. To determine who your CS Site Coordinator is, please email [circumpolarstudies@uarctic.org](mailto:circumpolarstudies@uarctic.org)

### Online Circumpolar Studies Office (North America)

Registrations for UArctic's international online Circumpolar Studies offered by North American institutions are managed by the Online Circumpolar Studies Office, who will register you in your course at the offering institution, keep a record of completed UArctic coursework, and may assist with credit transfer issues. If you encounter any problems, you can contact this office at [circumpolarstudies@uarctic.org](mailto:circumpolarstudies@uarctic.org) or phone +1 (705) 748 1303

### CS Course Prerequisites

The Circumpolar Studies core courses have the following prerequisite requirements:

- CS 100 is the prerequisite for CS 311, 321, 322, 331, and 332
- CS 100 and CS 311 are the prerequisites for CS 312
- Students who have NOT successfully completed CS 100 or equivalent cannot register in upper year courses.
- **Space in courses is limited, and will be assigned on a first come, first served basis.**

### Tuition

If applicable, tuition will be paid only to your home institution at the same rate as other courses offered by your home institution. Your CS Site Coordinator or the Online Circumpolar Studies Office (North America) can advise you further.

### Course Withdrawal

To assist students in avoiding academic penalties, the Online CS Office may act on your behalf to withdraw you if you have failed to log on to your class website for 14 days without prior approval from your instructor. **However, it is the student's responsibility to communicate regularly with their home and host institutions.**

**To prevent financial and academic penalties at your home institution, you must immediately inform your CS Site Coordinator and the Online CS Office when you have withdrawn or intend to withdraw from an international online Circumpolar Studies course.** Failure to do so will result in a grade of F on transcripts and possible financial implications.

It is ALWAYS the student's responsibility to ensure that they are following the academic deadlines and policies of the host institution, as well as their home institution.

### Transcripts and Credit Transfer

As UArctic is not a credit granting institution, it does not issue transcripts. The Online Office forwards your transcripts from the institutions that hosted your Circumpolar Studies courses to your home institution.

As the student, it is your responsibility to ensure you will receive credit for the successful completion of online Circumpolar Studies courses. Please be aware that interpretation of grades upon transfer is at the discretion of your home institution.

\*\* Transcripts are forwarded 6-8 weeks after the course end date. Receipt of transcripts before that time is not expected. In most instances, grades will be transferred as letter grades.

*If you are anticipating needing a transcript for graduate study application purposes, it is recommended that you request your own copy from the offering host institution.*

#### HOME INSTITUTION PERMISSION --- FOR INTERNAL USE ONLY

I verify that this student is accepted/registered at Hokkaido University and is approved to attend University of the Arctic and enroll in the above chosen course(s).

I verify that the student has the necessary pre-requisites, as well as **adequate English Language Proficiency**. All international online Circumpolar Studies courses and web discussions are held in English. English language skills must be at a level to enable a student to comprehend readings and participate fully in the course.

Name: Norie IWASAKI

Title: CS Site Coordinator

Signature (REQUIRED):

Date:

Contact Email: [global@oia.hokudai.ac.jp](mailto:global@oia.hokudai.ac.jp)

CS Site Coordinators - Please submit signed forms by encrypted email to:  
Facilitator of Online Circumpolar Studies Courses for UArctic, (North America) Attn: Kate Logan  
Trent University 302 Champlain College 1600 West Bank Drive, Peterborough, ON Canada K9L 0G2  
Email: [circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)

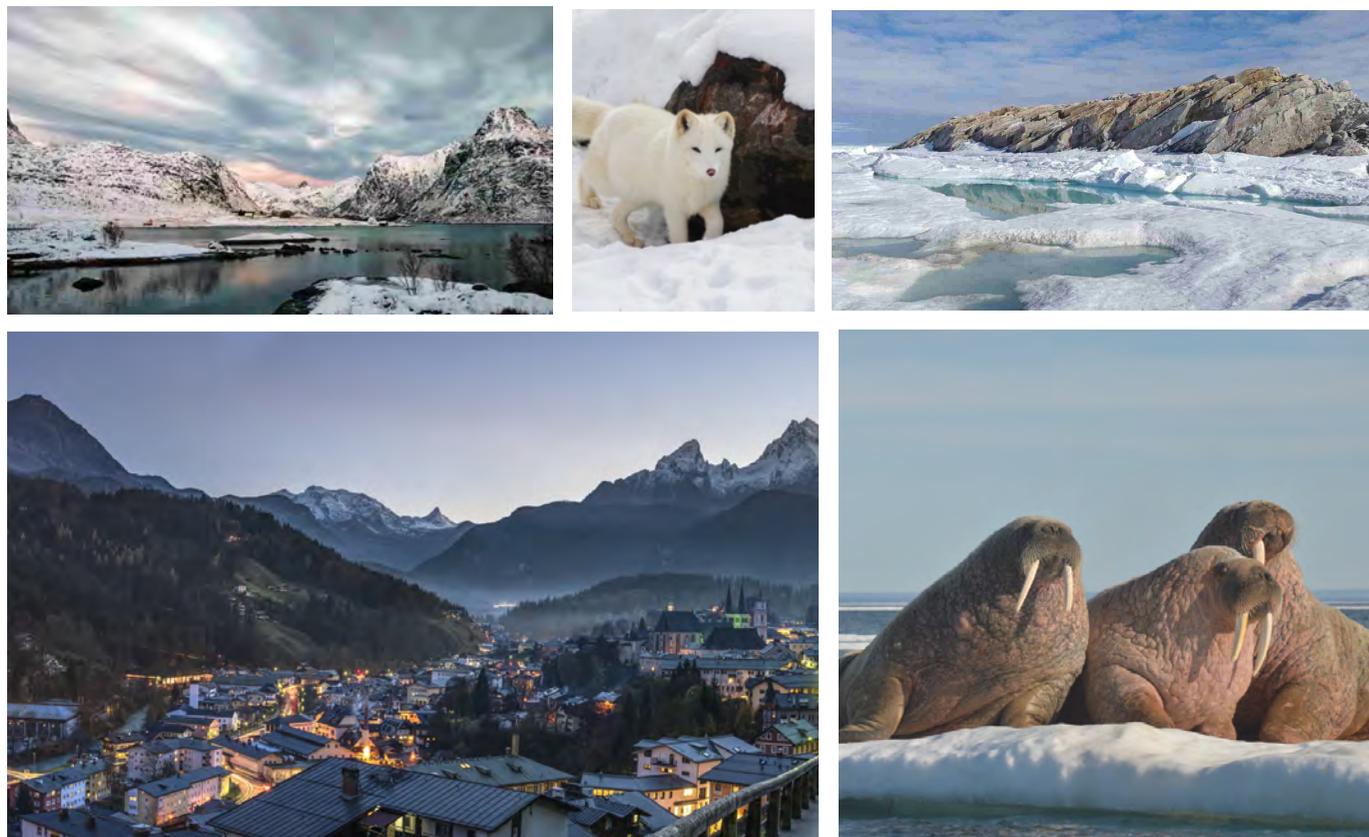
# The Circumpolar Studies Program

The Coolest Program Around!



UArctic

## Circumpolar Studies



The Circumpolar Studies program is an exciting way for students attending UArctic member institutions to learn about the North, with courses held in the classroom, online, in the field, and around the world.

Circumpolar Studies Program gives students the opportunity to learn about the lands, peoples, and issues of the Circumpolar North and prepares them for advanced study or professional employment in fields as diverse as sustainable resource management, self-government, Arctic engineering, and northern tourism. Special emphasis is given to matters concerning indigenous people of the Circumpolar North.



## Circumpolar Studies

# CS 100: Introduction to the Circumpolar World

Introduction to the Circumpolar World introduces students to the landscape, peoples and issues of the circumpolar region. Beginning with an examination of the geography, biological and physical systems of the Subarctic and Arctic, it then turns to the Aboriginal and contemporary peoples of the region. The history of the Circumpolar World is treated in a broad fashion, to provide grounding in the events and developments that have created the region's contemporary qualities. The second part of the course surveys some of the particular issues facing the region, including climate change, economic, political and social development. This course ultimately is intended to stimulate interest in the Circumpolar World.

.....

Study Term Dates:

Term 1: Sept - Dec 2021

Term 2: Jan - April 2022

Term 3: May - June 2022

Course dates and times:

TBA

Credit Equivalent:

6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding.

Hosted by

Yukon University/UNBC/

Trent University

.....



University of the Arctic

[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:

[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



**Circumpolar Studies**

# CS 311: Land and Environment 1

The primary aim of this course is to provide students with a more in-depth understanding of the lands and environments that defines the Circumpolar North, as well as the key issues involving interaction between humans and environment that were introduced through modules of CS100: Introduction to The Circumpolar World. Upon successful completion of Land and Environment I, students will have:

- A better understanding of the land, seas, climate, ecology, and natural resources of the Circumpolar North.
- An appreciation of how diverse methods contribute to understanding land and environment in the Circumpolar North.
- Insight into the challenges presented by the physical and natural universe, and an introduction to human influence on northern lands and environments.

.....

Study Term Dates:  
Sept - Dec 2021

Course dates and times:  
TBA

Credit Equivalent  
6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
Trent University

.....



University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



Circumpolar Studies

# CS 321: Peoples and Cultures of the Circumpolar World

The primary aim of this course is to introduce the peoples and cultures of the North Circumpolar region through interdisciplinary study in the fields of anthropology, sociology, history, media and cultural studies, communications and literature.

Students will be introduced to traditional cultures and contemporary peoples through indigenous and Western perspectives. This is the first of two courses that aim to promote an integrated and multidisciplinary understanding of the circumpolar peoples and their adaptations and contributions to social, economic, political and environmental changes. This course includes an introduction to Aboriginal cultures, a discussion of the Western presence in the Circumpolar North, and an examination of contemporary northern peoples.

This course examines primary societies (traditional Indigenous societies up to Western contact) and secondary societies (non-Indigenous enclaves in the North).

Upon successful completion of Peoples and Cultures I, students will:

- Acquire a broad and basic understanding of the histories and experiences of the peoples of the Circumpolar North, and the development of northern cultures;
- Develop an understanding of the similarities and differences of northern peoples and cultures, their adaptations to change, and their roles as agents of change;
- Gain an appreciation of the cultural diversity of the Circumpolar North;
- Develop an understanding of basic research methods and an appreciation of ethical issues confronting contemporary northern researchers.

.....

Study Term Dates:  
Sept - Dec, 2021

Course dates and times:  
TBA

Credit Equivalent  
6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
Trent University

.....



University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



**Circumpolar Studies**

# CS 331: Contemporary Issues of the Circumpolar World I

This course will introduce students to the important structures and forces affecting the sustainability of circumpolar communities.

Students will deal with the population trends in the circumpolar region, natural resource use and the economies of these communities, and economic ownership. This course will also provide students with an appreciation of the main challenges confronting the peoples and communities of the world's northern regions. As such it will be beneficial to students attempting to better understand the current questions facing the north as well as to those planning to pursue advanced studies about the region.

Upon successful completion of Contemporary Issues I, students will have:

- Acquired a basic appreciation of the most important contemporary issues relating to globalization, sustainable communities, and natural resource use in the circumpolar regions of the world.
- Attained an awareness of the relationship between the unique and diverse aspects of Northern societies and the common concerns facing the region.
- Gained further insight into the complexity and inter-relatedness of human activity and the northern environment.
- Critically examined various proposed explanations of the key challenges facing the North.
- Recognized the cultural and gender-related diversity of approaches and ways of approaching the Circumpolar world.

.....  
Study Term Dates:  
Sept - Dec 2021

Course dates and times:  
TBA

Credit Equivalent  
6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
Trent University

.....



University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



## Circumpolar Studies

# Arctic 200: Indigenous Diplomacies and International Relations in the Arctic

Become familiar with the Arctic's international relations, with an emphasis on understanding them from the region's indigenous people. All while studying dramatic environmental, geopolitical, economic and social transformations in the arctic. Furthermore, challenge yourself to understand to understand international frameworks through the lens of indigenous knowledge systems.

.....  
Study Term Dates:  
Sept – Dec 2021

Instructor: Jason Young

Credit Value: 6 ECTS

Course dates and times:  
TBA

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
University of Washington

.....



University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



Circumpolar Studies



# Arctic 301: Advanced Inuktitut: Inuit Language

This course will develop existing Inuktitut language, skills, and will expand students' knowledge of Inuktitut in the four areas of language and learning: listening, speaking, reading and writing. Students will engage in culture and news in Inuktitut. In Arctic 301, students continue with dialectology, finishing the tour of the Canadian dialects.

.....  
Study Term Dates:  
Sept – Dec 2021

Course dates and times:  
TBA

Instructor: Alexina Kublu

Credit Value: 6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
University of Washington

.....  
 **UArctic**  
University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



## Circumpolar Studies

# CS 312: Land and Environment of the Circumpolar World II

Land and Environment of the Circumpolar World II will provide students with a greater understanding of the complexity of important concepts and issues related to the land and environment of the North. The course deals with the impacts of natural and physical change on the peoples and conditions of the Circumpolar North. The course concentrates on three major fields for scientific study: (1) climate change, (2) natural resources, and (3) health and environment. Emphasis is given to the challenges of sustainability in the North, and to the need for long-term proper stewardship.

.....

Study Term Dates:  
January – April 2022

Course dates and times:  
TBA

Credit Equivalent:  
6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
Trent University

.....



**UArctic**  
University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



## Circumpolar Studies

# CS 322: Peoples and Cultures of the Circumpolar World II

Peoples and Cultures of the Circumpolar World II covers the complex issues around the revival of northern cultures and languages will be introduced, and you will be prepared to think about how these issues apply in your home community.

In this course, the complex issues around the revival of northern cultures and languages will be introduced, and you will be prepared to think about how these issues apply in your home community In this module, the complex issues around the revival of northern cultures and languages will be introduced, and you will be prepared to think about how these issues apply in your home community.

.....  
Study Term Dates:  
January – April 2022

Course dates and times:  
TBA

Credit Equivalent:  
6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding,

Hosted by  
Trent University

.....



**UArctic**  
University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



## Circumpolar Studies



# CS 332: Contemporary Issues of the Circumpolar World II

In Contemporary Issues of the Circumpolar World II, students will deal with questions relating to governance and politics, social issues, education and knowledge systems, and global issues in the North. This course will provide students with an appreciation of the main challenges confronting the peoples and communities of the world's northern regions. It will be beneficial to those students attempting to better understand the current questions facing the North as well as to those planning to pursue advanced studies about the region. In this module, the complex issues around the revival of northern cultures and languages will be introduced, and you will be prepared to think about how these issues apply in your home community.

.....

Study Term Dates:  
January – April 2022

Course dates and times:  
TBA

Course taught  
Asynchronous

Credit Value: 6 ECTS

Students may be eligible  
for OSAP and/or  
Government funding

Hosted by  
Trent University

.....



University of the Arctic  
[www.uarctic.org](http://www.uarctic.org)

For More Information:  
[circumpolarstudies@trentu.ca](mailto:circumpolarstudies@trentu.ca)



## Japanese Studies Open House

- DATE AND TIME:** Monday 18 October 2021, 17.00-18.40 (PDT Portland OR)  
Tuesday 19 October 2021, 9.00-10.40 (JST Sapporo)
- FORMAT:** Zoom Webinar
- ELIGIBILITY:** High school/college/university students intending to study in Japan/anyone interested in Japanese studies
- REGISTRATION:** Registration shall be made through the following Google form:  
<https://forms.gle/f7kSzudadeFhyTAK7>  
\*Registration will close at  
21.00 on Sunday, October 17 (PDT Portland OR)  
13.00 on Monday, October 18 (JST Sapporo)  
\*Webinar URL will be sent to your Email one day before the event  
\*The information collected from attendees upon the event registration will be solely used for the event information dissemination purpose.
- ORGANISERS:** Hokkaido University (HU) and its North America Office in Portland  
Portland State University (PSU)
- TENTATIVE PROGRAMME:**  
\*MC: Dir. So KAWANOBE of the HU North America Office

17.00-17.05 (9.00-9.05)	<b>Opening Remarks</b> Dir. So KAWANOBE of the HU North America Office
17.05-17.20 (9.05-9.20)	<b>Talk #1 on the Imperial Family in Modern Japanese History</b> Dr Kenneth RUOFF, Prof and Dir. of the Centre for Japanese Studies, PSU / HU Ambassador
17.20-17.35 (9.20-9.35)	<b>Talk #2 Mid-19<sup>th</sup> Century Hokkaido in Local and Global History</b> Dr Steven IVINGS, Assoc. Prof of the Faculty of Economics, Kyoto University
17.35-18.05 (9.35-10.05)	<b>Panel Discussion on Japanese Studies and Possible Career Paths</b> Dr RUOFF, Dr IVINGS, and; Dr Susanne KLIEN Assoc. Prof of the Modern Japanese Studies Program (MJSP), HU Dr Emma COOK Assoc. Prof of the MJSP, HU *Moderator: Dr Jonathan BULL, Lecturer of the MJSP, HU
18.05-18.35 (10:05- 10:35)	<b>Introduction and Q&amp;A Session of the HU's MJSP with Its Alumni Members (Current Master's students of HU)</b> Mr James Letson from the U.K. Mr Fernando Ursine from Brazil



	Ms Hongisto Netta from Finland *Facilitator: Dr Hironori SASADA, Prof of the MJSP, HU
18.35-18.40 (10.35- 10:40)	<b>Closing Remarks</b> Exec. Dir. Ron WITCZAK, Office of Global Engagement and Innovation, PSU

ENQUIRIES:

[collabo@oia.hokudai.ac.jp](mailto:collabo@oia.hokudai.ac.jp)

Div. of International Relations, International Affairs Dept., HU

NOTES:

This online event will be recorded and screenshotted for publicity purposes of the organisers.

# 第19回脳科学研究教育センターシンポジウム 「記憶・睡眠研究の最前線」

日時:2021年10月19日(火) 13:30~17:40(13時より入室可能)

形式:Zoomによるオンライン形式(参加申込不要)

※参加希望の方はパスコード等を脳科学研究教育センター([brain@med.hokudai.ac.jp](mailto:brain@med.hokudai.ac.jp))へお問い合わせ下さい。

13:30-13:45 はじめに:渡辺 雅彦(大学院医学研究院・脳科学研究教育センター)

13:45-14:35 「ドラゴンの徐波睡眠の神経機構」

乗本 裕明(北海道大学 大学院医学研究院 細胞薬理学教室)

座長:渡辺 雅彦(大学院医学研究院・脳科学研究教育センター)

14:35-15:25 「記憶の想起を促進させる神経メカニズム」

野村 洋(名古屋市立大学 大学院医学研究科 認知機能病態学)

座長:田中 真樹(大学院医学研究院・脳科学研究教育センター)

15:25-15:50 休憩

15:50-16:40 「エンGRAM細胞による記憶の脳内処理過程」

大川 宜昭(獨協医科大学 先端医科学統合研究施設 先端医科学研究センター  
認知・記憶研究部門)

座長:南 雅文(大学院薬学研究院・脳科学研究教育センター)

16:40-17:30 「なぜ動物は眠るのか?脊椎動物と無脊椎動物の双方からのアプローチ」

林 悠(京都大学 大学院医学研究科

・筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIIS))

座長:乗本 裕明(大学院医学研究院・脳科学研究教育センター)

17:30-17:40 おわりに:渡辺 雅彦(大学院医学研究院・脳科学研究教育センター)

問い合わせ先:南 雅文(薬学研究院, [mminami@pharm.hokudai.ac.jp](mailto:mminami@pharm.hokudai.ac.jp))

本シンポジウムは大学院共通授業科目「脳科学研究の展開IV-a」の指定講演会です。全講演の聴講で2ポイント(1講演につき0.5ポイント)が認定されます。詳細は脳科学研究教育センター事務([brain@med.hokudai.ac.jp](mailto:brain@med.hokudai.ac.jp))まで。

第 11 回毎日地球未来賞 募集要項

【名称】 第 11 回毎日地球未来賞  
 【主催】 毎日新聞社  
 【後援】 内閣府政策統括官（防災担当）、外務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省  
 【協賛】 株式会社クボタ

【賞の趣旨】 温暖化や環境破壊、食料・水などをめぐる諸問題は、21世紀の地球にますます深刻な影響を与え、早急に解決すべき課題となっています。こうした中、「食料」「水」「環境」の分野で、問題解決・改善に尽力する草の根の市民団体や個人・学生の活動を顕彰します。受賞者に賞金を贈り、活動を応援します。受賞者の活動を毎日新聞紙面などで紹介し、市民の理解を深め、「できることから実践する」きっかけにでもあります。

【授賞の対象】 □未来を担う若年層の活動が広がることが、地球の持続可能性を高めることとなります。この点も考慮し、「一般の部」と「学生の部」（大学生以下）に分けて募集、表彰します。

□授賞対象は、「食料」「水」「環境」の3分野での活動です。国内、海外のいずれも対象です。

この3分野の活動で、国連で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）に合致する取り組みを表彰対象とします。

東日本大震災などの地震や集中豪雨など自然災害による被災者・被災地を対象に、「食料」「水」「環境」の分野で復興に向けた活動を続ける団体・個人も表彰対象とします。

□いずれの賞も、3つの分野のうち1分野での活動、あるいは複数の分野にまたがる活動が対象となります。

【賞】 「一般の部」と「学生の部」は賞金が異なります。奨励賞は「学生の部」のみです。若い人たちの将来性に期待して最大5点授与します。

<一般の部>

◇毎日地球未来賞（大賞）	100万円	1点
◇クボタ賞（準大賞）	60万円	1点
◇SDGs未来賞	40万円	1点

<学生の部> 大学、高校、中学校、小学校などの学生・生徒・児童

◇毎日地球未来賞（大賞）	50万円	1点
◇クボタ賞（準大賞）	30万円	1点
◇SDGs未来賞	20万円	1点
◇奨励賞	10万円	5点以内

- 毎日地球未来賞（大賞）：活動実績及び活動の持続性、独自性を評価します。
- クボタ賞：大賞に準じるとともに将来性も重視する特別賞です。
- SDGs未来賞：活動の目的や内容が特にSDGsと合致し、その達成に貢献する活動を表彰します。
- 奨励賞：今後、さらに充実・発展が期待される学生の活動が対象です。

【選考】 自薦のほか、地域やNPO法人、各種団体、地方自治体などによる推薦。毎日新聞社取材網の情報を活用しながら選考委員会が審査、決定します。

◇選考委員（敬称略）

・選考委員長	蟹江 憲史	=慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
	焼家 直絵	=WFP国連世界食糧計画日本事務所代表
	清水 国明	=タレント
	木村 一尋	=株式会社クボタ専務執行役員
	小松 浩	=毎日新聞社論説特別顧問

【応募方法】

- (1) 規定の応募・推薦用紙に加えて、詳細な活動内容や今後の目標、活動を始めたきっかけなど「特に強調したいこと」は、8ページ以内（A4サイズ）で記述してください。写真や図表を使用するなど、形式は自由です。
- (2) パンフレット、冊子などの参考資料を提出できます。1団体・個人につき、2点まで。メール添付や「データ便」活用などで送れない場合は、1点につき8部郵送してください。
- (3) 応募用紙、「特に強調したいこと」は原則、メールに添付してお送りください。
- (4) 送付先

▽Eメール：chikyumirai@mainichi.co.jp

▽郵送：〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5

毎日新聞大阪本社事業部 毎日地球未来賞係

【応募締め切り】 2021年10月12日（火）

【表彰者の発表】 2022年1月、毎日新聞紙上

<令和3年度北海道支部企画特別講演> (オンライン版)

## SDGs (持続可能な開発目標) を考える

日時：令和3年9月13日(月) 13:00-15:00

実施方法：Zoom ウェビナー

<https://us02web.zoom.us/j/81616769050?pwd=a0dsRi9Ea3c0S0UzUklOa1RqUzZnUT09>

(事前登録は必要ないが、接続時に名前とメールアドレスを入力)

企画責任者：木村暢夫・川合祐史・田中啓之(北大院水)

- 13:00-13:05 開会挨拶・趣旨説明  
日本水産学会北海道支部長・秋季大会大会委員長 木村暢夫
- 特別講演1  
13:05-14:00 持続可能な未来を共につくる～北海道大学の取り組み～  
北海道大学 理事・副学長(国際、SDGs 担当) 横田 篤
- 特別講演2  
14:00-14:55 海洋プラスチックごみ問題と漁業における課題  
東京海洋大学 教授 東海 正
- 14:55-15:00 閉会挨拶  
日本水産学会北海道支部幹事・秋季大会副委員長 川合祐史

### 企画の趣旨

2015年の国連持続可能な開発サミットにおいて、2030年までに達成すべきSDGs(持続可能な開発目標)の17課題が採択された。それを受け、各分野で様々なアプローチにより目標達成に向けた取り組みが行われているが、今後さらに加速させる必要がある。本特別講演では、SDGs採択以前から持続可能な社会の実現に向けて活動してきた北海道大学の取り組みと海洋プラスチックごみの問題に関連した

責任ある漁業と漁業による海洋ごみ回収の取り組みを紹介する。

本特別講演は、北海道大学函館キャンパスでの久々の対面での日本水産学会大会実施を記念し、北海道支部が企画した。しかし、最近の感染拡大を受け、対面での実施は中止となった。ただ、本テーマは北海道や水産業にとって重要であるため、オンラインに切り替え、関係者の皆様にも本講演会を案内することとした。

日本学術振興会  
第13回 HOPE ミーティング  
13th HOPE Meeting with Nobel Laureates  
参加者募集要項

令和3年（2021年）6月  
独立行政法人日本学術振興会

**1. 趣 旨**

独立行政法人日本学術振興会（Japan Society for the Promotion of Science: JSPS）は、アジア・太平洋・アフリカ地域から選抜された優秀な大学院生等が、主として自然科学系ノーベル賞受賞者等の世界の知のフロンティアを開拓した人々との対話、同世代の研究者との交流、さらには人文学・社会科学分野の講演や芸術プログラムを通じて、より広い教養の涵養と人間性の陶冶を図り、将来の同地域の科学研究を担う研究者として飛躍する機会を提供するため、平成19年度（2007年度）よりHOPEミーティングを開催しています。

この度、第13回HOPEミーティングへの日本側参加者を募集します。本会議の参加者には、上述のHOPEミーティングの趣旨を理解し、アジア・太平洋・アフリカ地域の多様な文化や価値観を尊重しつつ、同地域の科学研究の将来を担う人材として積極的にこの交流事業に参画することが期待されます。

**2. 開催日程及び開催形式**

日 程：令和4年（2022年）3月7日（月）～3月11日（金）

開催形式：ウェブ会議システムによる会議（オンライン開催）

**3. 使用言語**

英語

**4. 講演者**

自然科学系ノーベル賞3分野（物理学、化学、生理学・医学）の受賞者をはじめ、国内外の著名研究者を予定しています。

（参考）前回 HOPE ミーティング講演者

天野 浩	（2014年ノーベル物理学賞）
梶田 隆章	（2015年ノーベル物理学賞）
Aaron Ciechanover	（2004年ノーベル化学賞）
Ada Yonath	（2009年ノーベル化学賞）
Ben L. Feringa	（2016年ノーベル化学賞）
Tim Hunt	（2001年ノーベル生理学・医学賞）
Gunnar Öquist	（ウメオ大学名誉教授）

**5. 募集人数（日本側参加者）**

15名程度

※その他、アジア・太平洋及びアフリカの国・地域から合計約90名が参加予定

### 第13回 HOPE ミーティング参加予定国・地域

オーストラリア、バングラデシュ、中国、エジプト、インド、インドネシア、イスラエル、ケニア、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、ニュージーランド、フィリピン、セネガル、シンガポール、南アフリカ、台湾、タイ、トルコ、ベトナム

## 6. プログラム（予定）

- (1) ノーベル賞受賞者等、著名研究者による講演
- (2) 講演者を交えてのグループディスカッション
- (3) 参加者によるポスター発表
- (4) 参加者チームによるプレゼンテーション
- (5) 文化プログラム、研究施設紹介

※プログラムの詳細は、本会ホームページにて順次公開します。

## 7. 参加に伴う経費

参加費は無料です。但し、参加者のインターネット環境整備やインターネット接続に係る費用、会議期間中の食費等は本会では負担しません。

## 8. 申請資格

本会議へ参加を希望する者は、申請時点において下記の（A）又は（B）を満たす必要があります。また、会議期間中に安定してインターネットに接続できる環境にあることとします。なお、過去に本会議に参加した者は対象としません。

- (A) 我が国の大学等学術研究機関\*（以下、「国内の研究機関」とする。）に所属する博士課程学生\*\*又は国内の研究機関で研究に従事する若手研究者\*\*\*であること（見込みを含む\*\*\*\*）。国籍は問わない。
- (B) 日本国籍を持つ者又は我が国に永住を許可されている外国人で、海外の大学等学術研究機関等（以下、「海外の研究機関等」とする。）に所属し、研究に従事する博士課程学生\*\*又は若手研究者\*\*\*であること（見込みを含む\*\*\*\*）。

- \* 我が国の大学等学術研究機関：  
以下に挙げる我が国の科学研究費補助金取扱規程（昭和40年文部省告示第110号）第2条に規定されている研究機関
- 1) 大学及び大学共同利用機関
  - 2) 文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの
  - 3) 高等専門学校
  - 4) 文部科学大臣が指定する機関

- \*\* 「博士課程学生」とは博士課程後期（又はそれに相当する課程）に在学する者を指す。  
※申請後、休学をした場合は、申請資格を満たさない場合があるため留意すること。

- \*\*\* 「若手研究者」は、令和3年（2021年）4月1日現在、博士の学位を取得後5年未満の者（平成28年（2016年）4月2日以降に学位を取得した者）を指す。

\*\*\* 「見込み」とは、申請時には申請資格である博士課程学生又は若手研究者ではないものの、令和3年（2021年）10月までに国内・海外の研究機関等に所属し、研究に従事することが確定していることを指す。申請時に「博士課程学生」又は「若手研究者」となる予定が証明できること。

## 9. 申請方法について

### 日本学術振興会への申請書の提出【電子申請システム】

申請は HOPE ミーティング専用電子申請システムより受け付けます。

申請者は下記の申請締切日時までに HOPE ミーティング専用電子申請システムを通じて申請手続きを進めてください。

提出書類については、別紙「申請手順及び申請書類作成要領」記載の提出方法に従って作成・提出してください。

なお、様式1・様式2・様式4の署名については自署または自署の電子画像による署名としてください。手書き風フォントをタイプした署名は認められません。

### 提出書類

様式0【必須】 ※ウェブ入力	第13回 HOPE ミーティング 参加申請書（申請者基本情報）
様式1【必須】	第13回 HOPE ミーティング 参加申請書
様式2【必須】	第13回 HOPE ミーティング 推薦書
様式3【必須】	第13回 HOPE ミーティング 申請者の所属を証明する文書
様式4【該当者のみ】	第13回 HOPE ミーティング 個人情報の取扱いに関する同意書
様式5【該当者のみ】	第13回 HOPE ミーティング 申請者が日本に永住を許可されていることを証明する文書

## 10. 申請締切日時

**令和3年（2021年）8月20日（金）17：00締切**

## 11. 選考方法、基準及び結果の通知について

### (1) 選考方法

参加者の選考は、HOPE ミーティング運営委員会委員による書面審査、及び合議審査によって行います。

### (2) 選考基準

主な選考基準は、以下のとおりです。

- ①優れた学術業績があり、科学的知識とその利用の社会的影響について高い関心を有していること。
- ②科学及び研究に広範かつ深い興味を有していること。
- ③当該分野の研究の将来を担う優れた研究者となることが期待できること。
- ④本会議への参加により、共同研究や人的ネットワーク形成に寄与する将来性が見込めること。
- ⑤交流や議論に積極的に参加する強い意欲及び十分な英語能力があること。

### (3) 選考結果の通知

選考結果については、令和3年（2021年）12月上旬に申請者本人へ通知します。  
なお、選考結果に関する個別の問い合わせには応じません。

## 1 2. 選考及び参加決定後のスケジュール（予定）

### 令和3年（2021年）

8月20日（金）	申請受付締切
9月	書面審査
10月	合議審査
12月上旬	選考結果の通知・公表 会議参加の準備（登録用紙等の提出、アブストラクトの提出）

### 令和4年（2022年）

<b>3月7日（月）～3月11日（金）</b>	<b>第13回 HOPE ミーティング</b>
3月下旬	報告書提出

## 1 3. 参加者の義務

本会議への参加が決定した者は、本会の定めに従って、参加のために必要な書類、ポスター発表のアブストラクト、会議報告書などの必要書類を提出してください。また、指定されたプログラムには全て参加することが義務づけられています。

## 1 4. 研究資金の不正使用等や研究活動における不正行為等に対する措置

研究者等による研究資金の不正使用等や研究活動における特定不正行為（ねつ造、改ざん、盗用）、全ての人権侵害行為（人種差別、性差別、セクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント、職権濫用、ネグレクト等）等の非違行為、法令違反、申請書の虚偽記載等が認められた場合には、採用決定の取消し、既に配分された研究資金の一部又は全部の返還等の然るべき措置をとります。

研究資金の不正使用等に関する取扱いについては、下記の URL より「研究活動の不正行為及び研究資金の不正使用等への対応に関する規程」を参照してください。

[https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/fuseitaiau\\_kitei.pdf](https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/fuseitaiau_kitei.pdf)

## 1 5. 個人情報の取扱い等

申請書類に含まれる個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び本会の「保有個人情報等保護規程」に基づき厳重に管理し、日本学術振興会の業務遂行のみに利用（データの電算処理及び管理を外部の民間企業等に委託して行わせるための個人情報の提供を含む。）します。

なお、採用された場合、参加者の氏名、職名、所属部署名、所属機関名及び参加報告書等が本会のウェブサイト等において公表されるほか、関係機関へ周知されることがあります。

また、EU を含む欧州経済領域（以下「EEA」という。）所在の申請者については、「GDPR（General Data Protection Regulation：一般データ保護規則）に沿い、**様式4**「個人情報の取扱いに関する同意書」を提出してください。なお、申請書類に EEA 在住者の情報が含まれる場合には、上記の取扱いについて該当者の同意を得てください。GDPR の詳細に関しては、下記のウェブサイト等を参考にしてください。

個人情報保護委員会

<https://www.ppc.go.jp/enforcement/infoprovision/laws/GDPR/>

## 16. その他

- (1) 本会は、本会議参加期間中に生じた傷害、疾病等の事故について責任を負いません。
- (2) 申請書及び添付書類の内容に虚偽、他人の申請書からの転用、署名の無断転用その他不正な記載があると判断した場合は、審査の対象外とし、また、当該研究者が本事業に採用された後に、同様の記載が発見された場合は、採用の取消しを含む所定の措置を講じます。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に鑑み、やむを得ず一部プログラムを変更する場合があります。
- (4) インターネット通信のトラブルにより本会議の参加に支障が生じた場合でも、本会は一切の責を負いません。
- (5) 第13回 HOPE ミーティングに採用されて参加した者は、参加者本人が希望する場合は、申請資格を満たしているかどうかを問わず、第14回 HOPE ミーティングへの参加資格を有するものとします。

## 17. 研究者情報の researchmap への登録について

researchmap (<https://researchmap.jp/>) は日本の研究者総覧として国内最大級の研究者情報データベースで、登録した業績情報は、インターネットを通して公開することもできます。また、researchmap は、e-Rad や多くの大学の教員データベースとも連携しており、登録した情報を他のシステムでも利用することができるため、研究者の方が様々な申請書やデータベースに何度も同じ業績を登録する必要がなくなります。

researchmap で登録された情報は、国等の学術・科学技術政策立案の調査や統計利用目的でも有効活用されておりますので、本事業参加者は、researchmap に登録くださるよう、御協力をお願いします。

## 18. JSPS-Net への登録について

JSPS Researchers Network (JSPS-Net) は、本会事業経験者を中心とする研究者向けソーシャル・ネットワーク・サービスで、国境を越えて活躍する研究者等のネットワーク、研究者コミュニティの形成を支援します。

同じ研究分野の研究者に加えて、異なる研究分野の利用者同士、同じ地域で活躍する研究者同士、それぞれの活動に関心を持つ研究者や研究支援に携わる方々が JSPS-Net 上でコミュニティを形成し、ネットワーキングを行うことで、将来的な国際交流、国際共同研究への発展や、登録者1人1人が世界で活躍する一助となることを目指しています。

また、若手や外国人研究者を受け入れている研究者と受け入れ先を探している若手研究者とをマッチングするサービスも提供しています。

本事業参加者は、JSPS-Net に登録くださるよう、御協力をお願いします。

<https://www.jsps-net.jsps.go.jp/>

## 19. 申請書類の提出先及び問い合わせ先

独立行政法人日本学術振興会  
国際事業部 研究協力第一課 若手交流第二係  
「HOPE ミーティング」担当  
〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1  
TEL : 03-3263-2414  
E-mail : [hope-meetings@jsps.go.jp](mailto:hope-meetings@jsps.go.jp)  
事業ホームページ : <https://www.jsps.go.jp/hope/index.html>

## 令和3年度中に公募予定のある学術国際交流事業一覧

(※令和3年6月15日現在)

事業の種類	事業名 (担当課)	事業概要	1件/1人当たり 支援内容	支援(実施)期 間	対象国・地域	対象分野	申請 締切	申請者
共同研究・セミナー・研究者交流支援型	二国間交流事業 共同研究・セミナー (研究協力第二課)	個々の研究者交流を進展させた二国間の研究チーム等の持続的ネットワーク形成を目指して、我が国の大学等の優れた研究者が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費を支援。	【対応機関との合意に基づく共同研究・セミナー】 共同研究:100~250万円以内/年度 セミナー:120~250万円以内 (対応機関により異なる) 【オープンパートナーシップ共同研究・セミナー(大学間連携)】 共同研究:200万円以内/年度 セミナー:200万円以内 【オープンパートナーシップ共同研究・セミナー(大学間連携)】 共同研究:300万円以内	【対応機関との合意に基づく共同研究・セミナー】 共同研究:1年以上3年以内 セミナー:1週間以内 (対応機関により異なる) 【オープンパートナーシップ共同研究・セミナー(大学間連携)】 共同研究:1年以上2年以内 セミナー:1週間以内 【オープンパートナーシップ共同研究・セミナー(大学間連携)】 共同研究:1週間以内	全地域	原則、全分野(対応機関によっては分野限定)	9月	研究者
	特定国派遣研究者事業 (人物交流課)	我が国の研究者が相手国の研究者を訪問し、研究、意見交換等を行うための経費を支援。	日本国内旅費	6~24カ月(派遣国、対応機関による)	フィンランド、ノルウェー	原則、全分野	9月	研究者
	国際共同研究事業 欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム(ORA) (研究協力第二課)	我が国の大学等の優れた研究者が欧州等4か国(フランス、ドイツ、英国、カナダ)の研究者と協力して行う社会科学分野における多国間国際共同研究を支援。	1,000万円以内/年度	2~3年	フランス、ドイツ、英国、カナダ	社会科学	9月(予定)	研究者
	国際共同研究事業 英国との国際共同研究プログラム (JRP-LEAD with UKRI) (研究協力第二課)	我が国の大学等の研究者が英国の研究者と協力して行う優れた国際共同研究のための経費を支援。	1,000万円以内/年度	3年	英国	社会科学、芸術・人文分野	7月	研究者
	日中韓フォーサイト事業 (研究協力第一課)	日中韓の学術振興機関が共同で、世界トップレベルの研究拠点の構築を目的として実施する共同研究・セミナー等の活動を支援。	5,000万円以内/5年間	5年	中国、韓国	年度ごとの分野/テーマ	1月(予定)	所属機関または部局長
研究拠点形成事業 (研究協力第一課)	A. 先端拠点形成型 世界的水準の研究交流拠点の構築を目的として、世界各国の研究機関との協力関係により実施する共同研究・セミナー等の活動を支援。	1,800万円以内/年度	5年	全地域	全分野	10月	所属機関または部局長	
	B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 アジア・アフリカ地域における諸課題の解決に資するため、アジア・アフリカ諸国の研究機関と実施する共同研究・セミナー等の活動を支援。	800万円以内/年度	3年	アジア・アフリカ	全分野	10月	所属機関または部局長	
若手研究者研鑽 機会提供型	先端科学(FoS)シンポジウム (研究協力第一課)	日本及び諸外国の新進気鋭の若手研究者を対象に、先端科学のトピックについて分野横断的な議論を行う合宿形式のシンポジウムを実施。	往復航空費、国内交通費、滞在費等	4日間	米国・ドイツと共催(開催地:ドイツ)	社会科学・自然科学の全分野	12月	機関長・優れた研究実績を有する我が国の研究者が推薦権者
	リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業 (研究協力第一課)	我が国の博士課程学生またはポストドク研究者を対象に、リンダウ・ノーベル賞受賞者会議(ドイツ)への参加を支援。	往復航空費、外国・国内交通費、会議参加費(滞在費を含む。)	1週間程度	ドイツで開催参加者は世界各国	年度ごとの分野(自然科学、経済学)	8月	博士課程学生、ポストドク研究者
	HOPミーティング~ノーベル賞受賞者との5日間~ (研究協力第一課)	アジア・太平洋・アフリカ地域の大学院生等がノーベル賞受賞者をはじめとした著名な研究者や同世代の参加者と交流を行い、将来の同地域の科学技術を担う研究者として飛躍する機会を提供。	(オンライン開催)	5日間程度	日本で開催参加者はアジア・太平洋・アフリカ地域	年度ごとの分野/テーマ	8月	博士課程学生、ポストドク研究者
外国人研究者の 招へい事業	外国人特別研究員(一般) (人物交流課)	博士号取得直後の優秀な諸外国の若手研究者に対し、我が国の大学等研究機関において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業	渡航費(往復航空券)、滞在費、渡日一時金等	12か月以上24か月以内	全地域	全分野	5月9月	受入研究者
	外国人特別研究員(欧米短期) (人物交流課)	博士号取得前後の優秀な欧米諸国の若手研究者に対し、比較的短期間、我が国の大学等研究機関において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業	渡航費(往復航空券)、滞在費、渡日一時金等	1か月以上12か月以内	欧米諸国(米国、カナダ、欧州連合(EU)加盟国、英国、スイス、ノルウェー及びロシア)	全分野	6月10月1月	受入研究者
	外国人招へい研究者(長期) (人物交流課)	中堅から教授級の優秀な諸外国の研究者を比較的長期間招へいし、我が国の研究者と共同研究を行う機会を提供する事業	渡航費(往復航空券)、滞在費等	2か月以上10か月以内	全地域	全分野	9月	受入研究者
	外国人招へい研究者(短期) (人物交流課)	中堅から教授級の優秀な諸外国の研究者を短期間招へいし、我が国の研究者との討議・意見交換や講演等を通じて関係分野の研究の発展に寄与することを目的とした事業	渡航費(往復航空券)、滞在費等	14日以上60日以内	全地域	全分野	5月9月	受入研究者
	論文博士号取得希望者に対する支援 事業(人物交流課)	日本の大学において学位取得を希望するアジア・アフリカ諸国等の研究者を我が国に招致、あるいは日本人指導者を派遣する事により、論文博士号の取得を支援。	120万円以内/年度	3年以内	アジア・アフリカ諸国等	全分野	8月	日本側研究指導者

## 北海道大学公共政策大学院（HOPS）オンライン体験入学のご案内

☞ 授業内容を体験できる！HOPSの授業を実際に受けていただく chance です。

北海道大学公共政策大学院（HOPS）では例年、秋季入学試験の前の時期に体験入学を実施しています。今回は、新型コロナウイルス蔓延防止のため、ほぼ全ての授業がオンラインで行われていることから、体験希望の方々にも Zoom で参加いただく設定といたしました。ご自身の都合の良い場所から、HOPS で行われている実際の授業を体験していただくことが可能です。HOPS への入学を検討している皆さん、どうぞ奮ってご参加ください。

**実施期間** 2021年7月7日（水）～16日（金）の間

**体験授業** 参加可能な授業は以下の通りです。

- ① 比較政治学（担当：馬場香織）水曜 2 限（7/7 10:30～12:00）  
テーマ「内戦後の人々の国家観：シエラレオネの事例」  
参加条件等：事前に PDF で配布する文献を読んで参加すること。受入人数 5 名程度
- ② 英語実務演習Ⅱ（担当：池直美）木曜 3 限（7/8 13:00～14:30）  
テーマ「Migration and Border Politics」  
参加条件等：受入人数 10 名程度。
- ③ 技術政策学（担当：渡部要一、村上裕一）火曜 2 限（7/13 10:30～12:00）  
テーマ「航空機で運ぶ（航空輸送：空港施設）」※渡部教授担当回  
参加条件等：特に無し。
- ④ 産業組織論（担当：今井晋）木曜 1 限（7/15 8:45～10:15）  
テーマ「ブランドの役割」  
参加条件等：受入人数 15 名程度まで。
- ⑤ 社会調査法（担当：武藤俊雄、城戸亮）金曜 3・4 限（隔週）（7/16 13:00～16:15）  
テーマ「地方議会改革とその評価に関する研究」  
参加条件等：受入人数 7 名程度。

**申込方法** 参加ご希望の方は、事前登録が必要です。7月5日（月）17時までに、公共政策大学院のウェブサイト上にある申込フォーム（※）に必要事項を記入の上、送信してください。

なお、お申込みの際には、「2021年参加同意書」を十分確認くださいますよう、お願いいたします。

※トップページ（<https://www.hops.hokudai.ac.jp/>）→入試情報→大学院体験入学にアクセス

**参加方法** 参加可となった方々に、各授業の参加に必要な Zoom の接続先情報を、7月6日（火）12時までにメールにてお知らせします。各自、事前登録をした授業にご参加ください。

**お問い合わせ先**

池 直美 准教授 n\_chi?hops.hokudai.ac.jp （?を@に変えてお送りください）



## 刑事政策に関する懸賞論文応募要領等

一般財団法人日本刑事政策研究会  
読 売 新 聞 社  
後 援 法 務 省

## 1 懸賞論文募集の趣旨

これまで、一般財団法人日本刑事政策研究会は、刑事政策に関しての優れた研究に対する「刑事政策研究会賞」の授与、会報誌「罪と罰」（季刊）の発刊等を通じ、また、読売新聞社は、法務省主催の「社会を明るくする運動」の後援等により、それぞれ「犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生を実現する」ことを目的とする活動を行ってきました。

住み良い社会を作り上げるためには、このような刑事政策思想の普及が特に重要であるとの観点から、この度、我が国の将来を担う大学又は大学院の学生を対象として、刑事政策に関する論文の募集を共催し、優れた論文に対して賞状及び賞金を贈呈することといたしました。

奮って応募してください。

## 2 論文の題目等

新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症蔓延の影響下における刑事政策上の諸問題とその解決方策について

警察庁が公表した令和2年の犯罪情勢（暫定値）によれば、同年の刑法犯認知件数は61万4,303件で、前年に引き続き戦後最少を更新した。刑法犯認知件数の総数は、平成15年以降一貫して減少しているが、令和2年は例年より大きく減少し（前年比17.9%減）、特に街頭犯罪の認知件数の減少が顕著である。他方で、令和2年には、我が国でも、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、休業中の店舗等への侵入窃盗や同ウィルスの感染拡大対策の一環として支給された給付金が詐取されるなど、同ウィルスに関連した犯罪が発生している。

また、新型コロナウイルス感染症への対応を理由に多くの裁判員等選任手続期日が取り消されたほか、一部の刑事施設では、同ウィルス感染症の集団感染が発生したため、刑務作業が中止されたり、被収容者との面会が制限されるなど、同ウィルス感染症は刑事司法にも大きな影響を及ぼしている。

政府は、医療従事者を皮切りに、順次ワクチン接種を行うなど新型コロナウイルス感染症の収束に向けた各種施策を講じているが、現状では、いまだ収束は見通せない状況にある上、将来においても、様々な感染症が流行する可能性は否定できない。

そこで、こうした現状等を踏まえ、今般の新型コロナウイルスによるものを含む感染症蔓延の影響下において生じ得る様々な刑事政策上の問題とその解決のための方策について、幅広い視野に立ち、自由な発想で論じていただきたい。なお、字数の制限もあるので、総花的な評論ではなく、具体的な施策として実現可能性のある提案の形で、少数のポイントに絞って論じていただきたい。

## 3 応募要領

## (1) 応募資格

大学又は大学院に在学する学生に限ります。

## (2) 論文作成上の注意事項及び分量

ア パソコン・ワープロで作成する場合は、A4判用紙（特定の大学、機関名等の入ったものは不可）を使用し、横書き、1ページ34字×32行、活字約12ポイント、字数4,000字以上6,400字以内とし、枚数は4ページ以上6ページ以内とします。

手書きする場合は、市販のA4判横書き用400字詰め原稿用紙を使用し、黒又は青インクの万年筆又はボールペンを使用して記載してください。鉛筆書きは無効とします。枚数は、同原稿用紙10枚以上16枚以内とします。

なお、統計表・グラフ等を用いる場合は、パソコン・ワープロ・手書きとも指定枚数内に収まるようにしてください。

イ 論文を記述した用紙には、氏名、大学名、担当教授名その他予断を生ずるような事項を記入しないでください（氏名等は、(3)のとおり、別紙に記載していただくことになっております。）。

ウ 募集しているのは試験の答案ではなく学術論文ですから、著作権法（特に第32条）にも留意しつつ、既に発表されている情報・意見等については、それに言及する際、その都度適切な出

典を注記し、また、判例・統計・グラフ等を引用するときにも、その都度資料源を明記して、一読しただけでどの部分が他者から得た情報でどの部分が独自の調査・収集に係る未発表の情報や主張であるかが判然とするようにしてください。

このような学術論文作成上のマナーを無視し、多くの文献に依拠しながら単に論文の末尾に引用文献を列挙するにとどまるようなものは、審査対象外とします。

## (3) 論文提出に当たっての留意事項

論文の提出に当たっては、論文の本文とは別に、次の書面を作成し、これを論文の本文に添付してください。

ア 別紙として、論文作成者の氏名（振り仮名を付ける。）、生年月日、住所、電話番号、大学名、学部及び学年を記載した書面  
イ 論文の要旨を字数800字以内にまとめた書面

(4) 論文提出は、1名一論文に限ります。

(5) 提出期限 令和3年8月31日（火）必着厳守

## (6) 論文の提出先

〒279-0013

千葉県浦安市日の出2丁目1番16号

法務省浦安総合センター内

一般財団法人日本刑事政策研究会 懸賞論文受付係

電話 047-304-5571

なお、封筒表面に「懸賞論文」と朱記してください。

## 4 賞及び賞金

優れた論文には、次の各賞に応じ、それぞれ賞金や賞品が贈呈されます。

## (1) 優秀賞（2名以内）

刑事政策研究会賞

各賞金20万円

及び

読売新聞社賞

各賞品

## (2) 佳作（5名以内）

刑事政策研究会賞

各賞金5万円

## 5 論文の審査

## (1) 審査委員

元福岡高等裁判所長官

池田修先生

慶應義塾大学法学部教授

太田達也先生

法政大学大学院法務研究科教授

安東美和子先生

読売新聞東京本社販売局総務・

読売新聞グループ本社社長室総務

原口隆則先生

法務総合研究所長

上富敏伸先生

## (2) 審査の最終決定は、令和3年11月下旬ころの予定です。

ただし、審査過程に関する問合せには応じません。

なお、応募論文は、返却いたしません。

## 6 受賞者の発表等

(1) 受賞者の発表は、一般財団法人日本刑事政策研究会の発刊する前記「罪と罰」誌上及び読売新聞紙上において行います。

(2) 優秀賞の論文は、「罪と罰」誌に全文掲載するほか、内容のいかんによっては、読売新聞紙に掲載されることもあります。

なお、受賞論文の著作権は、一般財団法人日本刑事政策研究会に帰属することとします。

令和3年5月7日

令和3年度国際学術雑誌論文投稿支援事業による支援希望者の募集について（通知）

本件について、別添の募集要領により下記の事業の支援希望者を募集します。本事業は国際的な学術雑誌への論文投稿に係る論文掲載料、論文校閲料等を支援することにより、本学研究成果の国際的な発信を促進するとともに、本学への運営費交付金配分額の算定に用いられる客観・共通指標（研究業績数、Top10%論文数）等の指標の向上に寄与することを目的として実施するものです。

については、貴部局等の教員、博士研究員、博士後期課程学生等に対し周知いただきますようお願い申し上げます。

記

令和3年度 国際学術雑誌論文投稿支援事業（2）人文社会系

支援対象：国際学術雑誌へ投稿する人文社会系論文の論文掲載料、論文校閲料等

申請期限：令和3年11月1日（月）（先着順、随時提出願います）

募集要領：08\_募集要領2（人文社会系）R3.pdf

申請様式：09\_様式2\_申請様式（人文社会系）R3.docx

以上

**【本件担当】**

大学力強化推進本部研究推進ハブ事業推進室

E-mail: ronbun-toukou@oeic.hokudai.ac.jp

・事業内容について

大学力強化推進本部 URA ステーション 岡田・王（内線 9575,9593）

・事務手続きについて

研究支援課大学力強化推進本部担当 五十嵐・吉川・小坂（内線 9566）

## 令和3年度 国際学術雑誌論文投稿支援事業（2）人文社会系 募集要領

本事業では、本学における人文社会系分野の研究成果の国際的な発信を促進するため、査読付国際学術雑誌へ論文投稿する際にかかる費用（論文投稿料、論文掲載料、論文校閲料、論文翻訳料）を助成します。

## 1. 支援対象者

本学に所属している教員（特任教員を含む）、博士研究員\*、博士後期課程学生\*

※博士研究員と博士後期課程学生は、指導教員、雇用教員または受け入れ教員（以下、「指導教員」と言う）の了承を得て応募してください。

## 2. 支援対象論文

Clarivate Analytics 社 Web of Science のマスタージャナルリスト（WoS Master Journal List : <https://mjl.clarivate.com/home>）に収録され、かつ、以下の Citation Index に分類される雑誌へ投稿する人文社会系学術論文（対象雑誌 約 5000 誌）

以下のいずれかの Citation Index に分類される雑誌： Arts & Humanities Citation Index  
Social Sciences Citation Index  
Emerging Sources Citation Index

※Citation Index の確認方法は別紙 2-1 「Citation Index の確認方法」を参照願います。

※令和4年2月15日（火）までに論文投稿（Submission）または論文採択（Acceptance）の事実が、投稿受付完了通知（写）または掲載決定通知（写）で確認できることが条件となります。申請時点で投稿予定の場合は、投稿後に必ず論文投稿受付完了通知（写）を提出してください（実際に掲載されたかどうかは問いませんが、追跡調査を行いますのでご承知おきください）。

## 3. 支援対象の種類

A：投稿料・掲載料                      B：校閲料・翻訳料                      （※A及びB，併用も可）

## 4. 支援額等

支援額：論文1件につき上限15万円（A，B併用の場合も同額）

支援件数：15件程度

※先着順で支援いたします。なお、予算額に達した時点で支援を打ち切りとさせていただきます。

また、今回支援する経費は、他の経費と合算使用することはできませんのでご注意願います。

## 5. 申請手続きについて

申請書類：申請者は様式2「申請様式（人文社会系）」に必要事項を記入の上、部局事務部経由で電子メールにて提出願います（提出先：ronbun-toukou@oeic.hokudai.ac.jp）。

申請期限：令和3年11月1日（月）（随時提出願います）

※申請様式を受理し支援対象者として登録した後、部局事務部を経由して本人へ採択通知書を送付します。

## 6. 期日にかかわる条件等

論文投稿料等の発注日が令和3年4月1日以降で、購入依頼書及び証拠書類（会計業務マニュアル参照）を令和4年2月1日（火）までに提出できるものが対象となります。

また、既に他の経費で支払い手続きが完了しているものは支援対象外とさせていただきますのでご注意ください。

### 【重要な締め切り】

R3.11. 1（月）：申請期限

（以下、採択通知書の受理者が対象）

R4. 2. 1（火）：購入依頼書及び証拠書類の提出期限

R4. 2.15（火）：論文投稿受付完了通知または掲載決定通知の提出期限

※期限までに提出できない場合は、ご自身の経費にて支弁していただくこととなりますので、ご承知おきください。

## 7. 支払い手続きについて

発注方法は、大学の会計規則に則った発注となります（科研費など同様の発注方法）。

部局等予算（一般運営財源）にて購入依頼書を作成していただき、各部局の事務部から事業推進室（研究支援課大学力強化推進本部担当）に提出してください。事業推進室で確認の上、調達課に提出し、調達課において支払財源を研究大学強化促進費補助金へ変更する処理を行います。

※手続きの流れについては、別紙2-2「事務手続きの流れ 事業（2）」を参照願います。

## 8. 応募要領

以下のURAステーションホームページ「論文情報」からも確認できます（学内限定）。

<https://u4u.oeic.hokudai.ac.jp/publications/>

## 9. 留意事項

- (1) 本事業は令和4年度以降も実施を予定しております（詳細については変更される可能性があります）。
- (2) 支援を受けた方は、本事業の効果検証のため、アンケート調査等にご協力いただくことがあります。

## 10. 問い合わせ先

E-mail: [ronbun-toukou@oeic.hokudai.ac.jp](mailto:ronbun-toukou@oeic.hokudai.ac.jp)

（事業内容に関する問い合わせ）

大学力強化推進本部研究推進ハブ事業推進室（URAステーション） 王・岡田（内線 9593）

（事務手続きに関する問い合わせ）

大学力強化推進本部研究推進ハブ事業推進室（研究支援課大学力強化推進本部担当）

五十嵐・吉川・小坂（内線 9566）

以上

## 令和3年度 国際学術雑誌論文投稿支援事業（2）人文社会系 申請様式

※申請期限：R3.11.1

令和3年 月 日 申請

申請者氏名	(漢字)	(ローマ字)
所属・身分		E-mail 内線
指導教員氏名 (学生、博士研究員のみ)		指導教員の上承 (学生、博士研究員のみチェック) <input type="checkbox"/> 了承を得ている
部局事務部 事務担当者氏名 (担当部署名)		E-mail 内線
投稿雑誌	雑誌名称	
	ISSN	
	投稿日(投稿予定日を含む)または採択日	
投稿雑誌が含まれる引用索引 (■ 対象引用索引をチェック)		<input type="checkbox"/> Arts & Humanities Citation Index <input type="checkbox"/> Social Sciences Citation Index <input type="checkbox"/> Emerging Sources Citation Index
投稿の論文タイトル		
言語		
共著・単著の区別 (共著の場合) 共著者全員の氏名・所属		<input type="checkbox"/> 共著 <input type="checkbox"/> 単著
A. 論文投稿料・掲載料を申請する場合、 <b>現在判明している範囲</b> で以下を記入		
見積金額		
発注方法(○で囲む)		調達課発注 ・ 特例発注 ・ 立替払い
購入依頼書及び証拠書類 の提出予定日(期限:R4.2.1)		
B. 校閲料・翻訳料を申請する場合、 <b>現在判明している範囲</b> で以下を記入		
校閲・翻訳する外国語		
発注業者名		
見積金額		
発注方法(○で囲む)		調達課発注 ・ 特例発注 ・ 立替払い
納品予定日		
購入依頼書及び証拠書類 の提出予定日(期限:R4.2.1)		

【提出先】E-mail: ronbun-toukou@oeic.hokudai.ac.jp

※申請は部局事務部を経由して提出してください。事業推進室は申請を受理し支援対象者として登録した後、部局事務部を経由して採択通知書を送付します。

## (記載例) 令和3年度 国際学術雑誌論文投稿支援事業(2) 人文社会系 申請様式

※申請期限: R3.11.1  
令和3年9月28日申請

申請者氏名	(漢字) 北大 太郎	(ローマ字) Hokudai, Taro
所属・身分	〇〇科学研究院・准教授	E-mail *****@hokudai.ac.jp 内線 内線〇〇〇〇
指導教員氏名 (学生博士研究員のみ)		指導教員 <small>の了承</small> (学生, 博士研究員のみチェック) <input type="checkbox"/> 了承を得ている
部局事務部 事務担当者氏名 (担当部署名)	大学 次郎 (〇〇事務部会計担当)	E-mail #####@hokudai.ac.jp 内線 内線〇〇〇〇
投稿雑誌	雑誌名称	ASIAN JOURNAL OF INTERNATIONAL LAW
	ISSN	2044-2513
	投稿日(投稿予定日を含む)または採択日	令和4年1月中旬
投稿雑誌が含まれる引用索引 ( <input checked="" type="checkbox"/> 掲載リストをチェック)		<input type="checkbox"/> Arts & Humanities Citation Index <input checked="" type="checkbox"/> Social Sciences Citation Index <input type="checkbox"/> Emerging Sources Citation Index
投稿の論文タイトル	Select Problems of Interaction Between the International and Domestic Legal Orders	
言語	英語	
共著・単著の区別 (共著の場合) 共著者全員の氏名・所属	<input checked="" type="checkbox"/> 共著 <input type="checkbox"/> 単著 札幌花子(北大文学部) 山田三郎(〇〇大学法学部)	
A. 論文投稿料・掲載料を申請する場合, 現在判明している範囲で以下を記入		
見積金額	105,000 円	
発注方法(○で囲む)	調達課発注 ・ 特例発注 ・ <u>立替払い</u>	
購入依頼書及び証拠書類 の提出予定日(期限:R4.2.1)	令和4年1月中旬	
B. 校閲料・翻訳料を申請する場合, 現在判明している範囲で以下を記入		
校閲・翻訳する外国語	英語	
発注業者名	(株)〇〇〇〇	
見積金額	40,000 円	
発注方法(○で囲む)	<u>調達課発注</u> ・ 特例発注 ・ 立替払い	
納品予定日	令和3年11月下旬	
購入依頼書及び証拠書類 の提出予定日(期限:R4.2.1)	令和3年11月下旬	

【提出先】 E-mail: ronbun-toukou@oeic.hokudai.ac.jp

※申請は部局事務部を経由して提出してください。事業推進室は申請を受理し支援対象者として登録した後, 部局事務部を経由して採択通知書を送付します。